

ふじみ野市埋蔵文化財調査報告 第4集

埼玉県ふじみ野市

市内遺跡群3

2008,3

ふじみ野市教育委員会

ふじみ野市埋蔵文化財調査報告 第4集

埼玉県ふじみ野市

市内遺跡群 3

2008, 3

ふじみ野市教育委員会



神明後遺跡第28地点全景



神明後遺跡18号住居跡出土浅鉢



神明後遺跡H22号住居跡出土遺物



神明後遺跡 H 2 号住居跡出土遺物



神明後遺跡H22号住居跡 No33



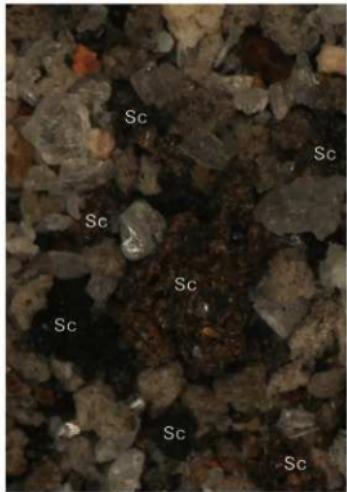
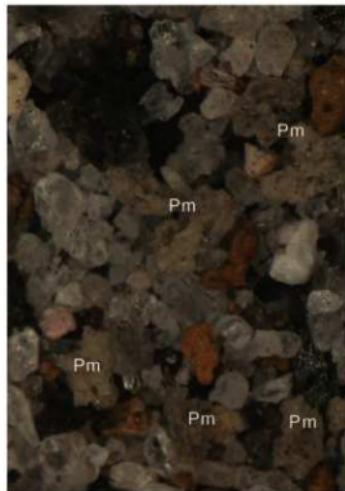
大井宿遺跡第13地点 No12



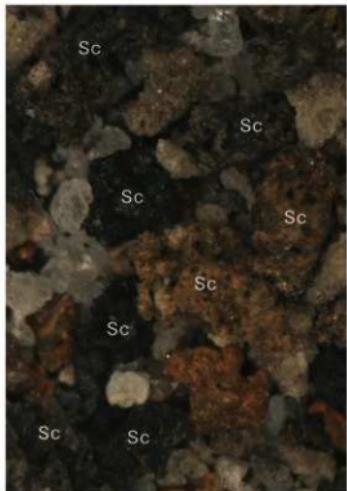
図版1 軽石・スコリア



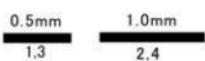
1.As-B の軽石(神明後遺跡第 28 地点堀跡 1; 8)

2.新期富士テフラのスコリア
(神明後遺跡第 28 地点堀跡 1; 12)

3.As-B の軽石(胸林遺跡第 1 地点大溝 1; 5)

4.新期富士テフラのスコリア
(胸林遺跡第 1 地点大溝 1; 3)

Pm:軽石, Sc:スコリア,



はじめに

ふじみ野市は平成17年10月の合併により新たな歴史を歩みはじめました。市内には、權現山古墳群や福岡河岸記念館、復元大井戸跡や旧大井村役場庁舎など、多くの文化財が存在し、2万数千年前の旧石器時代から現代までの長い歴史をみることができます。それぞれに特色のある地域の歴史も、一つの大きな流れとして捉えると、改めてこの地域の繋がりや関係の深さを感じます。そして、現在のふじみ野市も歴史的に大きな画期にあるといえます。

ふじみ野市は、都心から30km圏内という立地条件にあるため、昭和30年代ごろから急激な開発の波が押し寄せ、企業の工場や研究所の進出、住宅の建設ラッシュ、大規模都市基盤整備事業が計画・実施されました。人口の増加も伴って周辺の自然・社会の環境は大きな変化をしてきました。そして今、合併により更なる変貌を遂げようとしています。

今回、市内で発掘調査された成果を一冊の冊子にまとめることができました。発掘調査の成果は、近年の開発ラッシュに伴う店舗や住宅建設によるものが主体です。長い歴史の中で繰り返し住まいの地として利用されるということは、いつの時代でも、ふじみ野の地が住み良い土地であることの証明ともいえます。

本報告書は、国・県からの補助金を受けて実施した、「市内遺跡発掘調査」の結果得られた成果の記録書です。将来にわたってこれらの資料を、地域の文化・歴史を学ぶ糧として広く皆様方に活用していただければ幸いです。

おわりに、土地所有者、開発関係者の皆様には多大なご負担と、ご協力を賜りました。地域の文化財保護・保存についてのご理解をいただいたことに対し深甚なる敬意と感謝を申し上げます。

また、調査から本書刊行に至るまで、日本考古学協会員の今井堯先生をはじめ、文化庁・埼玉県教育委員会生涯学習文化財保護課・市関係各課・調査関係者の多くの皆様から、ご指導やご協力をいただきました。誌上をもって厚くお礼と感謝を申し上げます。

ふじみ野市教育委員会

教育長 吉野 英明

例　　言

1. 本書は、埼玉県ふじみ野市内に所在する遺跡群の、試掘調査41件と発掘調査15件の報告書である。
2. 2006年度に行なった試掘調査、個人住宅の本調査及び整理作業は、総経費13,404,971円に対し、国庫（6,700,000円）、県費（3,3500,000円）の補助金の交付を受け、平成18年4月7日から平成19年3月31日まで実施したものである。
3. 民間開発を原因として行なった8件の本調査は、開発原因者から委託を受けふじみ野市教育委員会が主体となって行なった。開発原因者・委託者は次のとおりで、各発掘調査及び整理作業、報告書刊行に伴う費用は各開発原因者の委託費により行なった。

遺跡名・地点名	委　　託　　者	協定期間
神明後遺跡第28地点	石崎産業株式会社	平成18年6月29日～平成20年3月31日
西ノ原遺跡第135地点	株式会社西武開発	平成18年5月29日～平成20年3月31日
東台遺跡第46地点	小林金作	平成18年9月15日～平成20年3月31日
東久保遺跡第64地点	石川眞一	平成18年10月23日～平成20年3月31日
江川南遺跡第22地点	有限会社セイケンハウス	平成18年11月7日～平成20年3月31日
江川南遺跡第23地点	島田行雄・島田久仁子	平成19年2月19日～平成20年3月31日
松山遺跡第40・41地点	株式会社アイダ設計	平成19年2月21日～平成20年3月31日

4. 調査組織

調査主体者	ふじみ野市教育委員会	文化財保護係調査担当者	高崎直成
担当課	生涯学習課文財保護係	調査担当者	鍋島直久
教育長	吉野英明	庶務担当	松原靖子
教育次長	伊藤修	発掘調査員補	越村篤
生涯学習課長兼参考原田昇		嘱託員	藤牧守絵
主幹兼係長	笹森健一（～平成19年3月31日）	臨時の任用職員	高橋京子
文化財保護係長	坪田幹男（平成19年4月1日～）		

5. 本書作成にあたっての作業分担は次のとおりである。

本書の執筆は縄文遺物を今井 堯が、遺構・その他を高崎直成が行なった。まとめについては文末に記した。
 採割図付：高橋けい子　遺物接合・復元：中田藤子　石器実測：大久保明子・鈴木智恵子・寺井美和子
 土器実測：石垣ゆき子・大久保明子・鈴木智恵子・寺井美和子・山口妙子　遺構・遺物図トレイス：小林登喜枝
 図版作成：青山奈保美・伊藤綾那・大久保明子・須藤さち子・高橋けい子・丹治つや子
 遺構写真：笹森健一・鍋島直久・高崎直成・越村篤　遺物写真：大久保明子
 土器実測の一部を(有)アルケーリサーチ、石器実測の一部を(有)文化財 COM に委託した。自然化学分析に関してはパリノ・サーザイエ(株)に委託した。神明後遺跡第28地点の航空測量図及び空撮は(株)東京航業研究所に委託した。また、整理作業全般において日本考古学協会員の今井堯氏の援助と協力を得た。

6. 各遺跡の調査から報告書刊行にいたるまで下記の諸氏・機関より御指導・ご協力を賜った。（敬称略）

会田明、天ヶ鳥岳、荒井幹夫、上田寛、越前谷理、大久保淳、大柴英雄、岡田賢治、加藤秀之、梶原勝、梶原喜世子、神木繁嘉、國見徹、隈本健介、小泉功、小出輝雄、酒井智晴、桜井信枝、佐藤聰子、佐藤良博、塙野賀一、鈴木清、高木文夫、田中信、丹治剛、角田史雄、中村愛、原口雅樹、早坂廣人、比嘉洋子、藤波啓容、堀善之、松本富雄、水村孝行、柳井章宏、柳澤健司、和田晋治
 埼玉県教育局生涯学習文化財課、大井郷土資料館、大井遺跡調査会、(有)文化財 COM、(有)アルケーリサーチ、(株)東京航業研究所

7. 発掘調査ならびに整理作業参加者は下記の皆様である。記して厚く感謝の意を表したい。

（発掘調査参加者）（敬称略）新井和枝、新井礼子、飯塚泰子、井川弘、壹岐ヒサ子、稻富亮子、井上晴江、井上麻美子、臼井孝、内田潔、遠藤忠志、大久保明子、大曾根キク子、長田弘毅、小田静夫、小野沢保孝、梶原明美、金子君子、

菊口繁子、木下一郎、小林こづい、西城満朗子、佐久間ひろ子、榎崎忠三、鈴木勝弘、関田成美、関向晶子、高貝しづ子、田村雪江、澁沢久嘉、寺井美和子、中山美徳、中村正、沼澤岩男、根岸年男、野岡由紀子、比嘉洋子、福田美枝子、星野辰子、増沢勝実、宮崎達夫、山崎美紀、吉田寛、若林紀美代

(富士見市教育委員会) 飯田久子、上田寛、島田仁、鈴木美恵子、清水淳、関根輝子、高野ナミ、塚本政勝、中川和弘、成田淑美、羽田美代子、吉田信江、瀬戸加代子

〈整理作業参加者〉(敬称略) 青山奈保美、石垣ゆき子、伊藤綾那、白井孝、大久保明子、小林登喜江、須藤さち子、高橋けい子、丹治つや子、寺井美和子、中田華子、山口妙子

凡　　例

1. 本書の遺構・遺物挿図の指示は以下のとおりである。

(1) 縮尺は原則として

遺構配置図 1:300 遺構平面図・遺物出土状況図 1:60, 1:30 炉などの詳細図 1:30
土器実測図 1:4 土器拓影図 1:4 石器実測図 1:4, 2:3 錢 1:1

(2) 遺構断面図の水系高は海拔高を示す。明記していないのは同図版中の前遺構の海拔高に同じ。

(3) 遺構図における screen-tone の指示、遺物出土状況のドットの指示。

搅乱		地山（ローム）		焼土			
土器	●	石器	★	黒曜石・チャート	▲	礫	○

(4) 土器断面図は、「網目」が職種含有、●が雲母粒を含有する縄文土器を表わしている。

(5) 遺物実測図における screen-tone の指示。

塗彩		煤		煤（タール状）	
----	--	---	--	---------	--

(6) 土器・陶磁器実測図の中心線が破線の場合は、180度回転させて復元実測したことを示す。

2. 住居跡名は、遺跡内の通し番号である。

3. 本報告にかかる出土品及び記録図面・写真等は一括してふじみ野市教育委員会生涯学習課に保管してある。

市内遺跡群3目次

はじめに	i
例言	ii
凡例	iii
目次	iv
挿図目次	vi
表目次	vii
写真図版目次	viii
第1部 試掘調査と個人住宅建設に伴う調査の成果 1頁	
第1章 調査の概要 1頁	
I 調査に至る経過	1頁
II 立地と環境	4頁
III 市内の遺跡	4頁
第2章 西遺跡の調査 8頁	
I 遺跡の立地と環境	8頁
II 西遺跡第1地点	8頁
第3章 北野遺跡の調査 10頁	
I 遺跡の立地と環境	10頁
II 北野遺跡第1地点	10頁
III 北野遺跡第2地点	10頁
第4章 川崎遺跡の調査 12頁	
I 遺跡の立地と環境	12頁
II 川崎遺跡第21地点	14頁
第5章 ハケ遺跡の調査 17頁	
I 遺跡の立地と環境	17頁
II ハケ遺跡C区7次調査	17頁
第6章 滝遺跡の調査 22頁	
I 遺跡の立地と環境	22頁
II 滝遺跡第12地点	23頁
第7章 長宮遺跡の調査 24頁	
I 遺跡の立地と環境	24頁
II 長宮遺跡第25地点	25頁
III 長宮遺跡第26地点	27頁
第8章 亀居遺跡の調査 29頁	
I 遺跡の立地と環境	29頁
II 亀居遺跡第61地点	29頁
第9章 鶴ヶ舞遺跡の調査 37頁	
I 遺跡の立地と環境	37頁
II 鶴ヶ舞遺跡第10地点	37頁
III 鶴ヶ舞遺跡第11地点	37頁
第10章 松山遺跡の調査 39頁	
I 遺跡の立地と環境	39頁
II 松山遺跡第25地点	40頁
III 松山遺跡第37地点	40頁
IV 松山遺跡第38地点	40頁
V 松山遺跡第39地点	40頁
VI 松山遺跡第40地点	42頁
VII 松山遺跡第41地点	42頁
VIII 松山遺跡第42地点	42頁
第11章 江川南遺跡の調査 45頁	
I 遺跡の概要	45頁
II 江川南遺跡第21地点	46頁
III 江川南遺跡第22地点	46頁
IV 江川南遺跡第23地点	46頁
第12章 江川東遺跡の調査 48頁	
I 遺跡の立地と環境	48頁
II 江川東遺跡第11地点	48頁
III 江川東遺跡第12地点	50頁
IV 江川東遺跡第13地点	50頁
第13章 東久保遺跡の調査 51頁	
I 遺跡の立地と環境	51頁
II 東久保遺跡第61地点	51頁
第14章 東久保西遺跡の調査 52頁	
I 遺跡の立地と環境	52頁
II 東中学校西遺跡第17地点	52頁
III 東中学校西遺跡第18地点	52頁
第15章 東中学校西遺跡の調査 54頁	
I 遺跡の立地と環境	54頁
II 東中学校西遺跡第28地点	54頁
III 東中学校西遺跡第29地点	54頁
IV 東中学校西遺跡第30地点	57頁
第16章 駒林遺跡の調査 58頁	
I 遺跡の立地と環境	58頁
II 駒林遺跡第1地点	60頁
III 駒林遺跡第2地点	63頁
IV 駒林遺跡第3地点	63頁

第17章 西ノ原遺跡の調査	69頁	第II部 民間開発に伴う本調査の成果	113頁
I 遺跡の立地と環境	69頁	第1章 松山遺跡第40地点の本調査	113頁
II 西ノ原遺跡第136地点	70頁	I 本調査の概要	113頁
III 西ノ原遺跡第137地点	70頁	II 遺構と遺物	113頁
IV 西ノ原遺跡第138地点	70頁	第2章 松山遺跡第41地点の本調査	120頁
V 西ノ原遺跡第139地点	70頁	I 本調査の概要	120頁
第18章 神明後遺跡の調査	72頁	II 遺構と遺物	120頁
I 遺跡の立地と環境	72頁	第3章 江川南遺跡第22地点の本調査	124頁
II 神明後遺跡第28地	72頁	I 本調査の概要	124頁
III 神明後遺跡第29地点	73頁	II 遺構と遺物	124頁
IV 神明後遺跡第30地点	73頁	第4章 江川南遺跡第23地点の本調査	128頁
第19章 清澤寺跡遺跡の調査	78頁	I 本調査の概要	128頁
I 遺跡の立地と環境	78頁	II 遺構と遺物	128頁
II 清澤寺跡遺跡第26地点	78頁	第5章 東久保遺跡第64地点の本調査	144頁
III 清澤寺跡遺跡第28地点	86頁	I 本調査の概要	144頁
第20章 大井宿遺跡の調査	87頁	II 遺構と遺物	144頁
I 遺跡の立地と環境	87頁	第6章 西ノ原遺跡第135地点の本調査	148頁
II 大井宿遺跡第12地点	87頁	I 本調査の概要	148頁
III 大井宿遺跡第13地点	89頁	II 遺構と遺物	148頁
IV 大井宿遺跡第14地点	92頁	第7章 神明後遺跡第28地点の本調査	157頁
第21章 大井氏船跡遺跡の調査	93頁	I 本調査の概要	157頁
I 遺跡の立地と環境	93頁	II 立地と環境	158頁
II 大井氏船跡遺跡第21地点	93頁	III 遺構と遺物	160頁
第22章 本村遺跡の調査	94頁	第8章 東台遺跡第46地点の本調査	226頁
I 遺跡の立地と環境	94頁	I 本調査の概要	226頁
II 本村遺跡第17地点	95頁	II 遺構と遺物	226頁
III 本村遺跡第118地点	101頁	第III部 まとめ	
第23章 大井戸上遺跡の調査	102頁		
I 遺跡の立地と環境	102頁	第1章 2006年度の調査について	239頁
II 大井戸上遺跡第5地点	102頁	第2章 神明後遺跡出土の縄文時代中期塗彩土器について	243頁
第24章 東台遺跡の調査	103頁	第3章 ふじみ野市内における縄文時代中期の継続型集落について	249頁
I 遺跡の立地と環境	103頁	附録 自然科学分析	
II 東台遺跡第45地点	108頁		
III 東台遺跡第46地点	108頁	神明後遺跡および駒林遺跡におけるテフラ分析	
IV 東台遺跡第47地点	109頁		
V 東台遺跡第48地点	109頁		253頁
抄録			
写真図版			261頁

挿 図 目 次

第1図	ふじみ野市の位置と周辺の地形	5頁
第2図	ふじみ野市道路分布図(1/30,000)	6頁
第3図	西道路の地形と調査区(1/4,000)	8頁
第4図	西道路第1地点道構配置図(1/400)	9頁
第5図	北野通路の地形と調査区(1/4,000)	10頁
第6図	北野通路第1-2地点調査区域図(1/300)	11頁
第7図	川崎道路の地形と調査区(1/5,000)	12頁
第8図	川崎道路第2地点道構配置図(1/300)	15頁
第9図	川崎道路H51号住居路(1/60)窓(1/30)	
	溝(1/100)出土遺物(1/1-2)	16頁
第10図	ハケ道路の地形と調査区(1/4,000)	17頁
第11図	ハケ道路C区(2次)調査区(1/300)土層図(1/150)	20頁
第12図	ハケ道路C区(2次)~6号住居路-道構外出土遺物(1/4)	21頁
第13図	道構路の地形と調査区(1/4,000)	22頁
第14図	道構路第12地点調査区城図(1/300)	23頁
第15図	長宮道路の地形と調査区(1/4,000)	24頁
第16図	長宮道路第25地点調査区城図(1/300)ピット(1/60)	26頁
第17図	民官道路第25地点調査区城図(1/300)土層図(1/60)	27頁
第18図	民官道路第25-26地点出土遺物(1/4-2/3)	28頁
第19図	亀屋道路の地形と調査区(1/4,000)	29頁
第20図	亀屋道路道構分図(1/1,500)	30頁
第21図	亀屋道路第9地点道構配置図(1/300)16号住居路(1/60)焼(1.30)	33頁
	亀屋道路第9地点出土遺物(1/1-30)	
第22図	亀屋道路第9地点出土石坑(1/30)土坑・ピット(1/60)	34頁
第23図	亀屋道路16号住居路出土遺物(1/4)	35頁
第24図	亀屋道路16号住居路出土遺物(1/60)地ビット-道構外出土遺物(1/4)	36頁
第25図	鶴ヶ舞道路の地形と調査区(1/4,000)	37頁
第26図	鶴ヶ舞道路第10-11地点調査区城図(1/300)土層図(1/150)第10地点群(1/30)	38頁
第27図	松山道路の地形と調査区(1/4,000)	39頁
第28図	松山道路第25-38-40地点調査区城図(1/300)土層図(1/150)41頁	
第29図	松山道路第39地点調査区城図(1/300)土層図(1/150)	
	ピット(1/60)出土遺物(1/4)	43頁
第30図	松山道路第41-42地点調査区城図(1/300)土層図(1/150)	44頁
第31図	江川南道路の地形と調査区(1/4,000)	45頁
第32図	江川南道路第21-22-23地点道構配置図(1/300)土層図(1/150)	47頁
第33図	江川東道路の地形と調査区(1/4,000)	48頁
第34図	江川東道路第11地点道構配置図(1/300)土坑・ピット(1/60)出土石器(2/3)	49頁
第35図	江川東道路第12-13地点調査区城図(1/300)	50頁
第36図	東久保道路の地形と調査区(1/4,000)東久保道路第64地点調査区城図(1/300)	51頁
第37図	東久保西道路の地形と調査区(1/4,000)	52頁
第38図	東久保西道路第17-18地点調査区城図(1/300)土層図(1/150)ピット(1.60)	53頁
第39図	東中学校西道路の地形と調査区(1/4,000)	54頁
第40図	東中学校西道路第28地点調査区城図(1/300)土層図(1/150)	55頁
第41図	東中学校西道路第29地点(1/60)出土遺物(1/4-1/1)30地点調査区城図(1/300)土層図(1/150)	56頁
第42図	東中学校西道路第29地点(1/60)出土遺物(1/4-1/1)30地点調査区城図(1/300)土層図(1/150)	57頁
第43図	駒林道路の地形と調査区(1/5,000)	58頁
第44図	駒林道路道構分図(1/2,000)	59頁
第45図	駒林道路第1地点道構配置図(1/300)	60頁
第46図	駒林道路第1地点道構配置図(1-3/1,100)	61頁
第47図	駒林道路第1地点茶毘尾(1/2-1/30)	62頁
第48図	駒林道路第2地点道構配置図(1/300)溝1-3(1/100)	64頁
第49図	駒林道路第3地点道構配置図(1/300)土層図(1/150)	65頁
第50図	駒林道路第3地点土坑(1/60)	66頁
第51図	駒林道路第3地点地点土坑2-3・井戸・ピット(1/60)溝1-2(1/100)	67頁
第52図	駒林道路第33地点土坑1-井戸-道構外出土遺物(1/4)	68頁
第53図	西ノ原道路の地形と調査区(1/4,000)	69頁
第54図	西ノ原道路第136地点調査区城図(1/300)土層図(1/150)出土土器(1/4)	70頁
第55図	西ノ原道路第137-138-139地点調査区城図(1/300)土層図(1/150)出土遺物(1/4)	71頁
第56図	神明後道路の地形と調査区(1/4,000)	72頁
第57図	神明後道路第28-29-30地点道構配置図(1/500-1/300)土層図	
	(1/150)	74頁
第58図	神明後道路第29地点調査区城図(1/60)	75頁
第59図	神明後道路第30地点調査区城図(1/60)	76頁
第60図	神明後道路第29地点調査区城図(1/4,000)	77頁
第61図	神明後道路第26地点調査区城図(1/4,000)	78頁
第62図	神明後道路第26地点道構配置図(1/300)	80頁
第63図	神明後道路第26地点窓穴1-6(1/30)	81頁
第64図	神明後道路第26地点窓穴7-10(1/30)	82頁
第65図	神明後道路第26地点土坑・ピット(1/60)	83頁
第66図	神明後道路第26地点窓穴(1/60)	84頁
第67図	神明後道路第26地点窓穴・土坑・ピット・溝・道構外出土遺物(1/4-2/3)	85頁
第68図	神明後道路第28地点道構配置図(1/300)溝(1/60)	86頁
第69図	大井宿道路の地形と調査区(1/4,000)	87頁
第70図	大井宿道路第12地点調査区城図(1/400)土層図(1/150)出土遺物(1/4)	88頁
第71図	大井宿道路第13地点道構配置図(1/300)道構平面図・土層図(1/60)	90頁
第72図	大井宿道路第13地点出土遺物(1/4-1/2-1/1)	91頁
第73図	大井宿道路第14地点調査区城図(1/300)土層図(1/150)出土遺物(1/4-1/2)	92頁
第74図	大井氏館跡道路の地形と調査区(1/4,000)大井氏館跡道路第21地点調査区城図(1/300)土層図(1/150)	
第75図	本村道構第21地点道構配置図(1/300)土層図(1/150)	93頁
第76図	本村道構第117地点溝全體図(1/200)土層図(1/100)	95頁
第77図	本村道構第117地点窓穴(1/100)土坑・風呂(1/60)椎(1/30)	97頁
第78図	本村道構第118地点窓穴(1/100)土坑・風呂(1/60)椎(1/30)	99頁
第79図	本村道構第118地点出土遺物(1/4)	100頁
第80図	本村道構第118地点道構配置図(1/300)溝(1/60)窓穴(1/60)	101頁
第81図	大井戸・井戸口の地形と調査区(1/4,000)大井戸・井戸口第5地点調査区城図(1/300)土層図(1/150)	102頁
第82図	東台道路の地形と調査区(1/4,000)	103頁
第83図	東台道路道構分図(1/2,000)	106頁
第84図	東台道路第45地点道構配置図(1/300)	107頁
第85図	東台道路第45地点道構配置団(1/300)	108頁
第86図	東台道路第47地点-48地点道構配置団(1/300)	109頁
第87図	東台道路第49号-100号-107号-170号住居路(1/60)	111頁
第88図	東台道路第49号-100号-107号-170号住居路-道構外出土土器(1/4)	112頁
第89図	松山道路第40地点道構配置団(1/300)	113頁
第90図	松山道路道構分団(1/3,000)	115頁
第91図	松山道路第40地点H33号住居路-遺物出土状況図(1/60)	
電(1/30)		116頁
第92図	松山道路第40地点地下下室・土坑(1/60)	118頁
第93図	松山道路第40地点ピット・溝(1/60)H33号住居出土遺物(1/4)	
	遺構外出土遺物(2/3)	119頁
第94図	松山道路第41地点道構配置団(1/300)	120頁
第95図	松山道路第41地点土坑(1/60)	121頁
第96図	松山道路第41地点土坑(1/60)	122頁
第97図	松山道路第41地点溝出土遺物(1/4-1/1)	123頁
第98図	江川南道路第22地点道構配置団(1/300)	124頁
第99図	江川南道路第22号窓群(1/100)土層図・出土状況(1/40)	125頁
第100図	江川南道路第22号窓群出土石器(2/3)	126頁
第101図	江川南道路第22号窓群(1/2,000)	126頁
第102図	江川南道路第23号窓群(1/300)	128頁
第103図	江川南道路第23号窓群(1/2,000)出土状況(1/200)	129頁
第104図	江川南道路第23号窓群(1/300)	130頁
第105図	江川南道路第23号窓群(1/40)出土物(1/40)	131頁
第106図	江川南道路第23号窓群(1/2,000)	132頁
第107図	江川南道路第23号窓群(1/40)出土物(1/40)	134頁
第108図	江川南道路第23号窓群(1/60)	135頁
第109図	江川南道路第23号窓群(1/60)	136頁
第110図	江川南道路第23号窓群(1/60)	137頁
第111図	江川南道路第23号窓群(1/3/100)	138頁
第112図	江川南道路第23号窓群(3-4/100)	139頁
第113図	江川南道路第5号住居出土遺物(1/4)	141頁
第114図	江川南道路第5号住居出土遺物(1/60)	
第115図	江川南道路第5号住居(1/60)炉(1/30)	
第116図	江川南道路第5号住居出土遺物(1/60)	
	遺物(1/4-2-3/1)	142頁
第117図	江川南道路第1号住居(1/60)出土遺物(1/4)	143頁
第118図	東久保道路第66地点道構配置団(1/300)出土土器(1/4)	144頁

第117回 東久保遺跡第64号土器(1.60) 145頁	第161回 神明後遺跡22号住居跡出土土器④(1/4) 197頁
第118回 東久保遺跡遺構分布図(1/2,000) 147頁	第162回 神明後遺跡22号住居跡出土石器(1/4,2.3) 198頁
第119回 西ノ原遺跡遺構分布図(1/2,000) 149頁	第163回 神明後遺跡23-24号住居跡-遺物出土状況図(1/60) 201頁
第120回 西ノ原遺跡第135地点遺構配置図(1/400)土層図(1/60) 152頁	第164回 神明後遺跡23号住居跡炉(1/30)-23-24号住居跡出土土器・石器(1/4,2.3) 202頁
第121回 西ノ原遺跡183号住居跡 153頁	第165回 神明後遺跡25号住居跡-遺物出土状況図(1/60)炉・煙塵(1/30) 203頁
第122回 西ノ原遺跡183号住居跡遺物出土状況(1/60)炉1-2(1/30) 154頁	出土土器・石器(1/4,2.3) 204頁
第123回 西ノ原遺跡135地点炉穴(1/30)炉(1/60) 155頁	第166回 神明後遺跡第28地点石窯に覆外縫設土器(1/30)出土土器・石器品(1/4) 205頁
第124回 西ノ原遺跡183号住居跡-遺構外縫設土器(1/4) 156頁	第167回 神明後遺跡第28地点屋外縫設土器1-2-3(1/30)出土土器(1/4) 206頁
第125回 神明後遺跡第28地点遺構配置図-断面図(1/400) 157頁	第168回 神明後遺跡第28地点炉穴1~3-風削木痕(1/60)出土土器(1/4,2.3) 207頁
第126回 神明後遺跡道場分布図(1/1,500) 158頁	第169回 神明後遺跡第28地点聚石(1~4)(1/30) 208頁
第127回 神明後遺跡15号住居跡(1/60) 160頁	第170回 神明後遺跡第28地点聚石(5~13)(1/30) 209頁
第128回 神明後遺跡15号住居跡炉(1/30)遺物出土状況図(1/60) 161頁	第171回 神明後遺跡第28地点聚石(14~20)(1/30) 210頁
第129回 神明後遺跡15号住居跡出土土器(1/4) 162頁	第172回 神明後遺跡第28地点聚石(21~23)(1/30) 211頁
第130回 神明後遺跡15号住居跡出土土器(1/4,2.3) 163頁	第173回 神明後遺跡第28地点聚石出土土器・石器(1/4) 212頁
第131回 神明後遺跡16号住居跡出土土器(1/4) 164頁	第174回 神明後遺跡第28地点落し穴(1/60) 213頁
第132回 神明後遺跡16号住居跡遺物出土状況図(1/60)炉・煙塵(1/30) 165頁	第175回 神明後遺跡第28地点ビット(1/60) 214頁
第133回 神明後遺跡15号-17号住居跡(1/60) 167頁	第176回 神明後遺跡第28地点土坑出土土器・石器(1/4) 215頁
第134回 神明後遺跡17号住居跡炉・煙塵(1/30)遺物出土状況図(1/60) 168頁	第177回 神明後遺跡H2号住居跡(1/60)甕(1/30) 216頁
第135回 神明後遺跡17号住居跡遺物出土状況図(1/60) 169頁	第178回 神明後遺跡H2号住居跡遺物出土状況図(1/40) 217頁
第136回 神明後遺跡17号住居跡出土土器(1/4) 170頁	第179回 神明後遺跡H2号住居跡出土土器・石器(1/4,2.3) 218頁
第137回 神明後遺跡17号住居跡出土土器(2/1) 171頁	第180回 神明後遺跡第28地点聚石(1/60)出土土器(1/4) 219頁
第138回 神明後遺跡17号住居跡出土土器(1/4,2.3) 172頁	第181回 神明後遺跡第28地点聚石(1~3)(1/60) 220頁
第139回 神明後遺跡18号-19号住居跡(1/60) 174頁	第182回 神明後遺跡第28地点遺構外縫設土器(1/4) 221頁
第140回 神明後遺跡18号住居跡炉-煙塵(1/30) 175頁	第183回 神明後遺跡第28地点石製品・金属製品・土製品(1/4) 222頁
第141回 神明後遺跡18号住居跡遺物出土状況図(1/60) 176頁	第184回 神明後遺跡第28地点遺構外縫設土器(2/3,1/4) 223頁
第142回 神明後遺跡18号住居跡出土土器(1/4) 177頁	第185回 東台遺跡第46地点遺構配置図(1/300) 226頁
第143回 神明後遺跡18号住居跡出土土器(2/1) 178頁	第186回 東台遺跡83号住居跡-遺物出土状況図(1/60)炉(1/30) 227頁
第144回 神明後遺跡18号住居跡出土土器(3/1) 179頁	第187回 東台遺跡83号住居跡石器(1/4,2.3) 228頁
第145回 神明後遺跡18号住居跡出土土器(1/4,2.3) 180頁	第188回 東台遺跡88号住居跡(1/60) 229頁
第146回 神明後遺跡19号住居跡(1/60) 181頁	第189回 東台遺跡88号住居跡遺物出土状況図(1/60)炉(1/30) 231頁
第147回 神明後遺跡19号住居跡炉-煙塵(1/30)遺物出土状況図(1/60) 182頁	第190回 東台遺跡88号住居跡出土土器(1/4) 232頁
第148回 神明後遺跡19号住居跡出土土器(1/4) 183頁	第191回 東台遺跡88号住居跡(1/4) 233頁
第149回 神明後遺跡19号住居跡出土土器(1/4,2.3) 184頁	第192回 東台遺跡88号住居跡出土土器(1/4) 234頁
第150回 神明後遺跡20号住居跡(1/60)炉-配石-遺物出土土器細図(1/30) 185頁	第193回 東台遺跡88号住居跡出土土器(1/4,2.3) 235頁
第151回 神明後遺跡20号住居跡遺物出土状況図-出土土器①(1/60,1/4) 186頁	第194回 東台遺跡第16号地点土坑(1/60)集石(1~41/30) 237頁
第152回 神明後遺跡20号住居跡出土土器②(1/4,2.3) 187頁	第195回 東台遺跡第16号地点土坑-集石出土土器・石器(1/4) 238頁
第153回 神明後遺跡21号住居跡-遺物出土状況図(1/60) 188頁	第196回 神社社闈園庭 241頁
第154回 神明後遺跡21号住居跡出土土器・石器(1/4,2.3) 189頁	第197回 社地境内内蔵軒-久田神社境内 241頁
第155回 神明後遺跡22号住居跡(1/60)炉(1/30) 191頁	第198回 本村道路遺構と春日(1/3,000) 242頁
第156回 神明後遺跡22号住居跡遺物出土状況図(1/60) 192頁	第199回 埼玉県内出土の古文書時代中期の塗彩された土器(1/12) 247頁
第157回 神明後遺跡22号住居跡遺物出土状況図(2/1) 193頁	第200回 埼玉県内出土の塗文彩様のある土器集成(1/4) 248頁
第158回 神明後遺跡22号住居跡出土土器①(1/4) 194頁	第201回 驚馬中期前半遺跡分布 251頁
第159回 神明後遺跡22号住居跡出土土器②(1/4) 195頁	
第160回 神明後遺跡22号住居跡出土土器③(1/4) 196頁	

表 目 次

第1表 過去2年間の調査件数と面積一覧 1頁
第2表 2006(平成18)年度埋蔵文化財調査一覧表 2頁
第3表 2006(平成18)年度立会い調査一覧表 3頁
第4表 ふじみ野市遺跡一覧表 7頁
第5表 織文時代中前期縫合分岐比对照表 7頁
第6表 川崎遺跡調査一覧表 13頁
第7表 川崎遺跡古代住居跡一覧表 14頁
第8表 ハケ遺跡調査一覧表 18頁
第9表 ハケ遺跡縄文時代住居跡一覧表 18頁
第10表 ハケ遺跡古代住居跡一覧表 18頁
第11表 遺跡調査一覧表 23頁
第12表 長官遺跡調査一覧表 25頁
第13表 長官遺跡第2地点ビット一覧表 27頁
第14表 長官遺跡第2地点出土遺物觀察表 27頁
第15表 亀居遺跡調査一覧表 31頁
第16表 亀居遺跡住居跡一覧表 31頁
第17表 亀居遺跡第6号地点集石 32頁
第18表 亀居遺跡第6号地点土坑・ビット一覧表 32頁
第19表 鶴ヶ舞遺跡第6号地点縄塵一覧表 37頁
第20表 松山遺跡第39号地点ビット一覧表 40頁
第21表 江川東遺跡第11号地点土坑・ビット一覧表 50頁

第22表 東中学校西遺跡第29地点土坑一覧表 56頁
第23表 胸林遺跡調査一覧表 59頁
第24表 胸林遺跡第1号地点遺構一覧表 62頁
第25表 胸林遺跡第2号地点遺構一覧表 63頁
第26表 胸林遺跡第3号地点遺構一覧表 68頁
第27表 胸林遺跡第3号地点出土土器物觀察表 68頁
第28表 神明後遺跡第29号地点遺構一覧表 73頁
第29表 神明後遺跡第30号地点遺構一覧表 76頁
第30表 清淨寺跡遺跡調査一覧表 79頁
第31表 清淨寺跡遺跡第26号地点遺構一覧表 80頁
第32表 清淨寺跡遺跡第26号地点遺構一覧表 86頁
第33表 大井宿遺跡第12号地点出土遺物觀察表 88頁
第34表 大井宿遺跡第13号地点土坑・ビット一覧表 89頁
第35表 大井宿遺跡第13号地点出土遺物觀察表 91頁
第36表 大井宿遺跡第14号地点出土遺物觀察表 92頁
第37表 本村遺跡第117号地点遺構一覧表 96頁
第38表 本村遺跡第117号地点出土遺物觀察表 100頁
第39表 東台遺跡調査一覧表 101頁
第40表 東台遺跡第99号住居跡一覧表 105頁
第41表 東台遺跡第99号住居跡ビット一覧表 110頁
第42表 東台遺跡100号住居跡ビット一覧表 110頁

第43表	東台道路170号住居跡ピット一覧表	110頁	第68表	神明後道路15号住居跡ピット一覧表	160頁
第44表	松山道路調査一覧表	114頁	第69表	神明後道路16号住居跡ピット一覧表	161頁
第45表	松山道路古代住居跡一覧表	114頁	第70表	神明後道路17号住居跡ピット一覧表	166頁
第46表	松山道路第23地点遺構一覧表	117頁	第71表	神明後道路18号住居跡ピット一覧表	175頁
第47表	松山道路H33号住居跡出土物観察表	117頁	第72表	神明後道路19号住居跡ピット一覧表	183頁
第48表	松山道路第1号住居跡一覧表	122頁	第73表	神明後道路20号住居跡ピット一覧表	188頁
第49表	松山道路第1号地点出土遺物観察表	123頁	第74表	神明後道路21号住居跡ピット一覧表	199頁
第50表	江川南道路第2号地点縄葬一覧表	124頁	第75表	神明後道路22号住居跡ピット一覧表	199頁
第51表	江川南道路第22号地点出土石器計測表	126頁	第76表	神明後道路23号住居跡ピット一覧表	200頁
第52表	江川南道路調査一覧表	131頁	第77表	神明後道路24号住居跡ピット一覧表	203頁
第53表	江川南道路住居跡一覧表	131頁	第78表	神明後道路25号住居跡ピット一覧表	203頁
第54表	江川南道路第28号地点縄葬一覧表	132頁	第79表	神明後道路28号地点窓一覧表	206頁
第55表	江川南道路第28号地点縄葬計測表	132頁	第80表	神明後道路28号地点集石一覧表	211頁
第56表	江川南道路5号住居跡ピット一覧表	133頁	第81表	神明後道路28号地点土坑、ピット一覧表	214頁
第57表	江川南道路第23号地点遺構一覧表	133頁	第82表	神明後道路H2号住居跡出土遺物観察表	217頁
第58表	江川南道路第23号地点集石一覧表	136頁	第83表	神明後道路第28号地点窓一覧表	219頁
第59表	江川南道路第25号地点出土遺物観察表	140頁	第84表	神明後道路28号地点出土石器計測表	224頁
第60表	東久保道路第6号地点土坑、ピット一覧表	144頁	第85表	東台道路H6号住居跡ピット一覧表	226頁
第61表	東久保道路調査一覧表	146頁	第86表	東台道路H6号住居跡ピット一覧表	229頁
第62表	西ノ原道路183号分野跡ピット一覧表	148頁	第87表	東台道路H6号地点土坑一覧表	236頁
第63表	西ノ原道路調査一覧表	150頁	第88表	東台道路H6号地点集石一覧表	237頁
第64表	西ノ原道路住居跡一覧表	151頁	第89表	東台道路H6号地点出土石器計測表	237頁
第65表	西ノ原道路183号分野跡出土石器計測表	155頁	第90表	埼玉県内出土遺物影写集表	243頁
第66表	神明後道路調査一覧表	159頁	第91表	埼玉県内出土土器影写集表	246頁
第67表	神明後道路住居跡一覧表	159頁	第92表	ふじみ野市内縄文時代跡消長表	252頁

写 真 図 版

巻頭図版1	神明後道路第28地点全景・17号住居跡出土浅鉢	291頁	写真図版31	江川南道路第23地点5号住居跡・集石	291頁
巻頭図版2	神明後道路第28地点22号住居跡・H2号住居跡・大井宿第13地点出土遺物	292頁	写真図版32	江川南道路第23地点出土土坑・溝・全景	292頁
巻頭図版3	自然科学分析	293頁	写真図版33	出土遺物(江川南道路第23地点)	293頁
写真図版1	西道跡第1地点、北野道跡第1・2地点、川崎道跡H51号住居跡	261頁	写真図版34	出土遺物(江川南道路第23地点)、東久保道路第61地点	294頁
写真図版2	川崎道跡H51号住居跡、ハケ道路C区7次調査、滝道跡第12地点、長官道路第25・26地点	262頁	写真図版35	西ノ原道路183号住居跡	295頁
写真図版3	鬼屋道跡H5号住居跡	263頁	写真図版36	西ノ原道路第135地点、出土遺物	296頁
写真図版4	鬼屋道跡H5号住居跡、鶴ヶ坂道跡第10・11地点	264頁	写真図版37	神明後道路第28地点全景・15号住居跡	297頁
写真図版5	松山道跡第25・37・42地点	265頁	写真図版38	神明後道路15号住居跡	298頁
写真図版6	江川南道路第21・23地点、江川東道路第11・12地点	266頁	写真図版39	神明後道路17号住居跡	299頁
写真図版7	江川東道路第13地点、東久保道路第64地点、東久保西道跡第17地点、中学校西道跡第28・30地点	267頁	写真図版40	神明後道路18号住居跡	300頁
写真図版8	胸林道跡第1地点	268頁	写真図版41	神明後道路19号住居跡	301頁
写真図版9	胸林道跡第2・3・3地点	269頁	写真図版42	神明後道路20号住居跡	302頁
写真図版10	駒林道跡第3地点、西ノ原道路第136・139地点	270頁	写真図版43	神明後道路22号住居跡	303頁
写真図版11	神明後道路第28-30地点、淨寺寺跡第26地点	271頁	写真図版44	神明後道路20・21・23・24号住居跡	304頁
写真図版12	淨寺寺跡第26地点	272頁	写真図版45	神明後道路25号住居跡、石棚、樹外埋設土器	305頁
写真図版13	淨寺寺跡第26地点	273頁	写真図版46	神明後道路28地点屋外埋設土器、炉穴	306頁
写真図版14	淨寺寺跡第26地点、28地点、大井宿道跡第12・13地点	274頁	写真図版47	神明後道路28地点集石	307頁
写真図版15	大井宿道跡第13・14地点、大井氏館跡道第21地点、本村道跡第117地点	275頁	写真図版48	神明後道路28地点窓	308頁
写真図版16	本村道跡第117地点	276頁	写真図版49	神明後道路28地点集石・土坑	309頁
写真図版17	本村道跡第118地点、大井戸上道路第5地点、東台道路第45-48地点	277頁	写真図版50	神明後道路28地点窓・溝	310頁
写真図版18	東台道路第48地点、整理作業	278頁	写真図版51	神明後道路28地点H2号住居跡・見学会	311頁
写真図版19	出土遺物(川崎道跡H27号住居跡、ハケ道路C区7次調査、長宮道跡第25・26地点)	279頁	写真図版52	出土遺物(神明後道路15・16号住居跡)	312頁
写真図版20	出土遺物(鬼屋道跡第16号住居跡、松山道跡第39地点)	280頁	写真図版53	出土遺物(神明後道路16・17号住居跡)	313頁
写真図版21	出土遺物(江川東道路第11、胸林道跡第3地点、東中学校西道跡第2地点、西ノ原道路第136・137地点、神明後道路第29・30地点、淨寺寺跡道跡第36地点)	281頁	写真図版54	出土遺物(神明後道路17号住居跡)	314頁
写真図版22	出土遺物(本村道跡第117地点、大井宿道跡第13・14地点、東台道路第48地点)	282頁	写真図版55	出土遺物(神明後道路18号住居跡)	315頁
写真図版23	松山道跡第40地点全景・H33号住居跡	283頁	写真図版56	出土遺物(神明後道路18号住居跡)	316頁
写真図版24	松山道跡第40号地点H33号住居跡・土坑	284頁	写真図版57	出土遺物(神明後道路18-20号住居跡)	317頁
写真図版25	松山道跡第40号地点土坑・溝・作業風景	285頁	写真図版58	出土遺物(神明後道路20・21号住居跡)	318頁
写真図版26	松山道跡第41号地点全景	286頁	写真図版59	出土遺物(神明後道路21・22・23・25号住居跡)	319頁
写真図版27	松山道跡第41号地点土坑・土坑	287頁	写真図版60	出土遺物(神明後道路22号住居跡)	320頁
写真図版28	出土遺物(松山道跡第40・41地点)	288頁	写真図版61	出土遺物(神明後道路22号住居跡)	321頁
写真図版29	江川南道路第22地点・出土遺物	289頁	写真図版62	出土遺物(神明後道路22-25号住居跡)	322頁
写真図版30	江川南道路第23地点縄葬	290頁	写真図版63	出土遺物(神明後道路28地点屋外埋設土器、集石)	323頁
			写真図版64	出土遺物(神明後道路第28地点集石・土坑、炉穴)	324頁
			写真図版65	出土遺物(神明後道路28地点H2号住居跡)	325頁
			写真図版66	出土遺物(神明後道路28地点窓・遺構外)	326頁
			写真図版67	東台道路第46地点H3号住居跡	327頁
			写真図版68	東台道路第46地点98号住居跡・土坑・集石	328頁
			写真図版69	出土遺物(東台道路第46地点98・98号住居跡)	329頁
			写真図版70	出土遺物(東台道路第46地点98号住居跡・集石・土坑・遺構外)	330頁
			写真図版71	出土遺物(東台道路第46地点98号住居跡・集石・土坑・遺構外)	331頁

第Ⅰ部 試掘調査と個人住宅建設に伴う本調査の成果

第1章 調査の概要

I 調査に至る経過

埼玉県ふじみ野市は、首都圏30km圏内の県南西部に位置する。平成17年10月1日に、上福岡市と大井町が合併して誕生し、面積14.67km²、人口は平成19年11月末現在105,150人である。

旧大井町は畑作を中心とする農村地帯であり、旧上福岡市も畑作と低地での稲作を中心とする農村地帯であった。

昭和の初期、太平洋戦争時には福岡に通信施設や火工廠（造兵廠）が建設された。

戦後は、昭和30年代以降に中・小の宅地開発と団地が誕生し、人口が急増した。また企業の工場や研究所も多数進出してきた。

昭和60年代以降は、旧大井町地域で大規模な土地区画整理事業が進み、約8割の埋蔵文化財が地区内に位置するため発掘調査が活発に行なわれている。現在は上福岡駅周辺の再開発が行なわれている。

市では国庫補助を受けて、平成17年から「市内遺跡群発掘調査事業」（旧上福岡市、旧大井町では昭和53年から合併まで）として試掘調査・確認調査と個人住宅建設に伴う本調査を実施してきた。また、民間の開発に対応する本調査も、原因者と協議の上協定書並びに契約書を締結し、原因者負担のもと、教育委員会が主体となって調査を実施している。

遺跡の調査は、庁内関係各課と連絡調整をして行ってきた。農業委員会事務局からは農地転用許可申請段階、建設課からは建築確認申請段階、都市整備課から

は開発事前協議の申請段階でそれぞれチェックされる。教育委員会は遺跡地図と照合のうえ、遺跡包蔵地内及びその縁辺部の申請に対して現地踏査を実施し、遺跡の状況を確認する。そのうえで遺跡に影響をおよぼすとみなされる工事主体者に連絡し協議を行った。

その協議後、文化財保護法第99条第5項にもとづき民間・公共事業を問わず確認調査をすべて公費で対応し、埋蔵文化財包蔵地の詳細な範囲の把握を積極的に実施してきている。また事業者が個人であって専その個人の用に供する住宅の建設に伴う調査についても、教育委員会が発掘調査主体者となって調査を実施した。

2006年度、国庫・県費補助対象の調査を23件、市単独費対象の調査29件を合わせて52件の試掘及び発掘調査を実施した。試掘調査の結果本調査を行うことになったのは、個人住宅建設に伴う本調査が8件、公共事業に伴う本調査が1件、民間開発に伴う本調査は8件である。

開発面積は60,976m²で、そのうち実質調査面積は21,727m²である。亀久保地区、大井・苗間地区的区画整理事業に統いて、東久保土地区画整理事業に伴なう道路造成がほぼ終了し、今後ますます民間開発の急増が見込まれるなかで、埋蔵文化財の保存及び調査体制の強化が求められてくるところである。

参考までに、過去 年間の調査件数と面積を第1表にあげてみる。また、2006年度に行った調査は第2～3表とのおりである。

第1表 過去2年間の調査件数と面積一覧

件数・内訳 年度	試掘件数	個人住宅 本調査件数	原因者負担 本調査件数	調査原因の内訳
	開発面積m ²	開発面積m ²	開発面積m ²	
2005(平成17)年度	56件	3件	10件	個人住宅26、共同住宅4、分譲住宅10、店舗7、店舗併用住宅2、鉄塔1、道路1、宅地造成3、公園造成1
	33,253	509	8,340	
2006(平成18)年度	54件	8件	9件	個人住宅23、共同住宅7、集合住宅・店舗建設1、分譲住宅5、店舗4、園舎改築工事1、建物解体工事1、宅地造成8、学生寮1、保育所建設1、小学校建設1、コンテナボックス設置1
	60,976	1,340	26,988	

第2表 2006(平成18)年度埋蔵文化財調査一覧表

	遺跡・地点名	申請地住所	調査面積 (m ²)	開発面積 (m ²)	原 因	試掘期間	調査期間	備 考
1	西遺跡1地点	西2丁目2068番1,3,4/2069番1	3,000	3,467	共同住宅・分譲住宅	2007/3/12~26	2007/4~8/1	縄文遺構検出
2	北野遺跡1地点	北野2丁目2110番1の一部 2112番1	44	408	分譲住宅2棟	2006/4/7		遺構遺物なし
3	北野遺跡3地点	北野1丁目3061番4		148	分譲住宅2棟	2006/4/28		遺構遺物なし
4	川崎遺跡21地点	川崎1-6-10の一部	124	298	個人住宅建設	2006/4/11	2006/4/14~20	平安住居跡1軒、清掃出
5	ハケ遺跡7地点	福岡3-2	130	666	宅地造成	2006/7/10~22		縄文、奈良平安遺構検出
6	純遺跡第12地点	純2丁目5-3の一部及び5-4の一部	80	472	個人住宅建設	2007/2/6		遺構遺物なし
7	長宮遺跡25地点	中丸1丁目4番地8	20	1,161	個人住宅建設	2007/2/15~16		縄文遺構遺物検出
8	長宮遺跡26地点	中丸1丁目4番地8	24	1,161	個人住宅建設	2007/2/15~16		縄文遺構遺物検出
9	龟居遺跡61地点	龟久保2-13-4の一部	88	171	個人住宅建設	2006/10/4	2006/10/10~10/13	縄文住居跡1軒 縄文遺構検出
10	鶴ヶ舞遺跡10地点	鶴ヶ舞1丁目64番6	20	96	個人住宅建設	2006/6/5		旧石器埋葬群検出
11	鶴ヶ舞遺跡11地点	鶴ヶ舞1丁目65番2,6	420	1,316	建物解体工事	2006/9/21~10/5		遺構遺物なし
12	松山遺跡37地点	松山2丁目6番10,13	60	228	個人住宅建設	2006/4/13		遺構遺物なし
13	松山遺跡38地点	仲1丁目4-3,9,12,13,24	76	2,176	宅地造成	2006/5/29		遺構遺物なし
14	松山遺跡39地点	築地2丁目3-10	330	937	宅地造成7区画	2007/1/10~20		遺構なし
15	松山遺跡40地点	築地1丁目1-5	500	1,047	宅地造成7区画	2007/2/2~8	2007/2/21~3/9	奈良住居跡1軒、中世遺構検出
16	松山遺跡41地点	中ノ島1丁目2-5	330	1,281	宅地造成9区画	2007/2/7~9	2007/2/21~3/5	中世遺構遺物検出
17	松山遺跡42地点	仲2丁目3番15	12	108	個人住宅建設	2007/2/13		遺構遺物なし
18	江川南遺跡21地点	東久保1-29-1	24	99	個人住宅建設	2006/10/11		遺構遺物なし
19	江川南遺跡22地点	東久保132-11	90	208	分譲住宅2棟	2006/10/11~11/6	2006/11/7~11/9	旧石器埋葬群検出
20	江川南遺跡23地点	東久保1丁目121番1	610	1,011	分譲住宅9棟	2007/1/24~2/1	2007/2/19~3/16	旧石器埋葬群、縄文住居跡1軒、縄文遺構検出
21	江川東遺跡11地点	東久保1丁目162番1,14	200	674	分譲住宅	2006/11/9~11/15		遺構検出
22	江川東遺跡12地点	東久保1丁目27-3	6	72	宅地造成	2006/11/10		遺構遺物なし
23	江川東遺跡13地点	東久保1丁目155番4	24	114	個人住宅建設	2006/8/11		遺構遺物なし
24	東久保遺跡64地点	ふじみ野2丁目18-6の一部	112	437	共同住宅建設	2006/10/12~10/20	2006/10/24~26	中世~近世溝検出
25	東久保西遺跡17地 点	ふじみ野2丁目9番1,2,3	220	919	共同住宅建設	2006/10/26		遺構遺物なし
26	東久保西遺跡18地 点	ふじみ野2丁目11-8,11-15	128	478	個人住宅建設	2007/1/16~19		遺構遺物なし
27	東中学校西遺跡26 地点	ふじみ野1丁目1-13,14,15, 32,23	680	1,568	共同住宅建設	2006/4/24~5/10		遺構遺物なし
28	東中学校西遺跡29 地点	ふじみ野4-4-1	600	2,004	店舗建設	2006/5/15~19,7/28~8/1		縄文土坑検出
29	東中学校西遺跡30 地点	ふじみ野3-10-13	56	634	保育所建設	2006/7/3		遺構遺物なし
30	駒林遺跡1地点	駒林土地区画整理事業地内 20街区4,8,9	146	646	共同住宅建設	2006/7/13~8/2		堀跡、茶見跡検出
31	駒林遺跡2地点	駒林土地区画整理事業地17街区 7,8の一部	80	421	専用住宅建設	2006/11/21~29		堀跡検出
32	駒林遺跡3地点	駒林土地区画整理事業地21街区 3,4の一部	333	1,916	店舗建設	2006/11/30~12/18		近世遺構検出
33	西ノ原遺跡135地 点	うれし野1丁目226-1	1,160	3,342	集合住宅・店舗 建設	2006/3/14~4/28	2006/5/29~6/19	縄文住居跡1軒、印穴検出
34	西ノ原遺跡136地点	苗間1-13-22,23	44	630	学生寮	2006/6/23		遺構遺物なし
35	西ノ原遺跡137地 点	うれし野2丁目17番5,6,7	208	861	共同住宅建設	2006/8/3~7		遺構遺物なし
36	西ノ原遺跡138地 点	旭1丁目4-7,4-8	40	247	個人住宅建設	2006/11/21~22		遺構遺物なし
37	西ノ原遺跡139地 点	うれし野1-4-4,5,6	16	474	共同住宅建設	2007/2/1		遺構遺物なし
38	神明後遺跡28地点	苗間神明後306-1	1,200	2,171	宅地造成	2006/5/8~31	2006/6/29~10/5	縄文住居跡11軒、集石、炉穴、溝検出

	遺跡・地点名	申請地住所	調査面積 (m ²)	開発面積 (m ²)	原 因	試掘期間	調査期間	備 考
39	神明後遺跡29地点	苗間神明後303-21,24	52	136	個人住宅建設	2006/5/8~ 11	2006/5/5~ 11	縄文遺物、古代~ 中世溝検出
40	神明後遺跡30地点	苗間神明後303-1	60	101	個人住宅建設	2006/5/8~ 19	2006/12/14~ 19	縄文遺物 道構/近 世柱穴検出
41	淨禪寺跡遺跡26地点	苗間神明後354-23	112	112	個人住宅建設	試掘調査(2005.3)	2006/4/17~ 28	縄文道構遺物検出
42	淨禪寺跡遺跡26地点	苗間神明後354-24	114	114	個人住宅建設	試掘調査(2005.3)	2006/6/7~ 15	縄文道構遺物検出
43	淨禪寺跡遺跡28地点	苗間字東久保719-7,720-1	22	2,478	園舎改築工事	2007/1/23		溝検出
44	大井宿遺跡12地点	大井1丁目6-22	110	2,664	事務所兼店舗 及び工場建設	2006/6/13~ 16		近世道構検出
45	大井宿遺跡13地点	大井1-3-32	60	151	個人住宅建設	2006/8/21	2006/8/22~ 24	近世遺構遺物検出
46	大井宿遺跡14地点	大井1丁目2-19,2-20	112	944	コンテナボックス設置	2007/3/27~ 29		近世道構検出
47	大井氏館跡遺跡21地点	大井1丁目7-15	22	174	個人住宅建設	2006/5/22		道構遺物なし
48	本村遺跡117地点	大井2-11-4,6の一部	1,582	1,582	店舗建設	2006/3/22~ 4/14		中世道構遺物検出
49	本村遺跡118地点	市沢2丁目12番13	80	257	個人住宅建設	2006/5/24~ 25	2006/5/25	縄文道構検出
50	大井戸上遺跡5地点	大井字東台739番14	10	326	個人住宅建設	2006/7/10		道構遺物なし
51	東台遺跡45地点	大井字東台710-1,711-1,717-1,2	7,971	17,391	小学校建設	2006/5/31~ 9/1	2006/9/8~ 2007/3/7	旧石器石器群、縄 文道構遺物検出
52	東台遺跡46地点	大井字東台626-11	80	100	宅地造成	2006/9/4~ 6	2006/9/15~ 28	縄文住居跡2軒検 出
53	東台遺跡47地点	大井字東台602番4,602番5	80	320	個人住宅建設	2006/9/19~ 20		道構遺物なし
54	東台遺跡48地点	大井字東台649-21	25	60	個人住宅建設	2007/1/16~ 26		縄文住居跡3軒検 出
合計			21,727	43,585				

第3表 2006(平成18)年度立会い調査一覧表

遺跡名	申請地住所	開発面積	原因	立会日	再開発時の対応
1 北野遺跡	北野2丁目2119番2,4の各一部	217	鉄骨2階建て長屋建設	2007.1.24	
2 北野遺跡	北野2丁目2119番2,4の各一部。,3,5	221	専用住宅2階建て	2007.1.24	
3 北野遺跡	北野1丁目3115-8	51	専用住宅(木造3階建)建設	2007.2.7	道構遺物なし
4	大井武藏野1273-1	7,398	ターミナル倉庫	2006.9.20	
5 鶴ヶ岡外	亀久保字大野原1644-10	119	専用住宅(2階建て)	2006.9.14	
6	鶴ヶ岡2丁目27-4	1,145	共同住宅	2006.6.6	
7	大井武藏野406-2,3	2,300	店舗	2006.10.25	
8	新田2丁目423-3,424-1,425の一部。426の一部	273	専用住宅(2階建て)建設	2006.4.19	盛土保存
9 西ノ里遺跡裏地点	苗間1丁目13-13	206	個人住宅建設	2007.3.9	
10 北野遺跡	北野2-1788-1	158	専用木造住宅(3階建)建設2棟		盛土保存
合計		11,818			

II 立地と環境

ふじみ野市は埼玉県の南西部に位置し、市内には富士見川越有料道路、東武東上線、川越街道（国道254号線）、関越自動車道といった、交通の幹線が北西から南東方向に平行して存在する。市内の開発はこうした幹線沿いや、東武東上線上福岡駅周辺、ふじみ野駅周辺を中心に進んでいるが、郊外には畠地や田園風景も多くみられる。

ふじみ野市を地形的にみると、武蔵野台地と荒川低地に大きく分かれ、旧大井町域は武蔵野台地縁辺部に位置し、旧上福岡市域は台地縁辺部から荒川低地の沖積地に広がる。

武蔵野台地は古多摩川が形成した扇状地で、扇頂部で標高180m、扇端部は標高15~20mで比高差10m前後の急斜面となって荒川低地と接している。台地には柳瀬川、黒目川、石神井川等の中河川が荒川低地へ向かって流れ、深い谷と沖積地を形成し、河川に沿って多くの遺跡が分布している。他にも多数の小河川が流れ、台地縁辺を鋸歯状に開析することが多いが、中には急崖もなく、緩斜面のまま低地に接していくことがある。この緩斜面はもともと低位の段丘面で、低位台地と呼ばれる。旧大井町地域を南北方向の断面図で見ると、北と南に高台が続き、その中に低位台地（大井台）がある。この大井台の中を3本の河川が東流し、河川の流域に遺跡が集中している。中でも砂川堀は狭山丘陵に流れを発する中河川で、本来大井台はこの砂川の段丘面と捉えることができる。また、福岡江川や富士見市との境を流れるさかい川、浄禅寺川などの小河川は市内に湧水源をもつ。湧水源は浅い窪地から発しており、こうした窪地の形成は從来から伏流水が再湧出したことによるものと、宙水からの流出によるものとの二通りが考えられている。

荒川低地は、荒川により形成された沖積地で、ふじみ野市の北東部から東部にかけての地域が属する。荒川の支流である新河岸川は、川越市に水源を発し武蔵野台地縁辺部を繞るように流れ、川越市、ふじみ野市、富士見市、志木市、朝霞市を経て荒川に合流する。低地部は平坦にみえるが、荒川や新河岸川の河川改修等で取り残された沼や、氾濫でできた旧河道（埋没河川）、自然堤防、後背湿地などの地形が存在する。

III 市内の遺跡

ふじみ野市の遺跡分布をみると、台地上の中小河川沿いと荒川低地部を望む縁辺部、低地部分に分かれる。市内の遺跡を、時代順に河川ごとに概観する。

【旧石器時代・縄文時代】一番北の川越江川では右岸高台に礫群・石器群を検出する鶴ヶ岡外遺跡、鶴ヶ岡遺跡があり、縄文時代中期の集落である西遺跡へと続く。川崎貝塚として著名な川崎遺跡は荒川低地に張り出した舌状台地に立地し、縄文時代早期から後期までの住居跡を検出する。

川崎遺跡を回り込んだ新河岸川は台地東縁をなめるように流れ、急峻な崖を形成する。崖線上に縄文時代中期のハケ遺跡、学史上著名な前期集落の上福岡貝塚が形成される。舌状台地の南側は一段低い立川段丘面が形成され、清水が流れる。下流右岸の長宮遺跡では微高地に縄文時代早期～後期の集落が形成される。

川越江川の1km南には福岡江川が流れ、新河岸川へ注ぐ。福岡江川の湧水地に接して縄文時代中期前半の亀居遺跡があり、対岸の江川南遺跡でも住居を検出する。旧石器時代（立川ローム第IV層）の礫群もこの2遺跡で検出している。最下流の低地に形成された微高地上には縄文時代前期集落の鷺森遺跡がある。

福岡江川の900m南にはさかい川が流れ、3km下流で砂川堀と合流する。流域には縄文時代中期の拠点集落である西ノ原遺跡をはじめ、10遺跡が存在する。縄文時代の集落は時代を追うごとに對岸の中沢遺跡、下流の神明後遺跡、苗間東久保遺跡へ拠点を移していく。

さかい川の800m南に砂川堀が流れるが、流域には大きく3ヶ所の地域で遺跡分布がみられる。砂川が流れを発する最上流域の狭山丘陵裾部、伏流水となりはじめる中流域、一旦地中に姿を消したあと再び湧水してくれる下流域である。下流域であるふじみ野市では、砂川右岸が段丘となり5~6mの急崖を形成している。この高台上には縄文時代中期の拠点集落である東台遺跡があり、旧石器時代の遺跡も西台遺跡から東台遺跡まで連続と続く。砂川左岸、低位台地上では市内で最も古い時期であるAT降灰前（立川ローム第V層）の石器を本村遺跡の微高地上から検出した。縄文時代には上流の小田久保遺跡で小規模な集落の存在が考えられるが、本村遺跡では炉穴、落し穴が散在するのみである。

【弥生・古墳時代】荒川低地の自然堤防上に立地する伊佐島遺跡では弥生時代後期の環濠集落が存在する。

舌状台地東端の崖線上に立地する権現山遺跡は古墳時代前期の古墳群で、方墳11基の他、2号墳は古墳時代初期の前方後方墳として注目される。古墳時代中期になると古墳の造営は北西の権現山北古墳群に移る。

古墳時代の集落は川崎遺跡と権現山遺跡、上福岡貝塚、古墳群南の滝遺跡で検出している。

【飛鳥・奈良・平安時代】7世紀代には川崎・上福岡の舌状台地の西側に川崎横穴墓群、東側に富士見台横穴墓群が存在する。集落は川崎遺跡や長宮遺跡、松山遺跡など一段低い段丘面で展開し、広範囲に散在して検出する。8世紀代には前述遺跡の他、ハケ遺跡、上福岡貝塚、滝遺跡、神明後遺跡でも検出し、9世紀以降10世紀まではさらに伊佐島遺跡、東台遺跡、東久保南遺跡、西ノ原遺跡でも住居を検出しているが、多数の住居を検出するのは川崎遺跡、ハケ遺跡、松山遺跡であり、特にハケ遺跡では銅鏡金具が、川崎遺跡では瓦塔の破片と布目瓦が出土している。

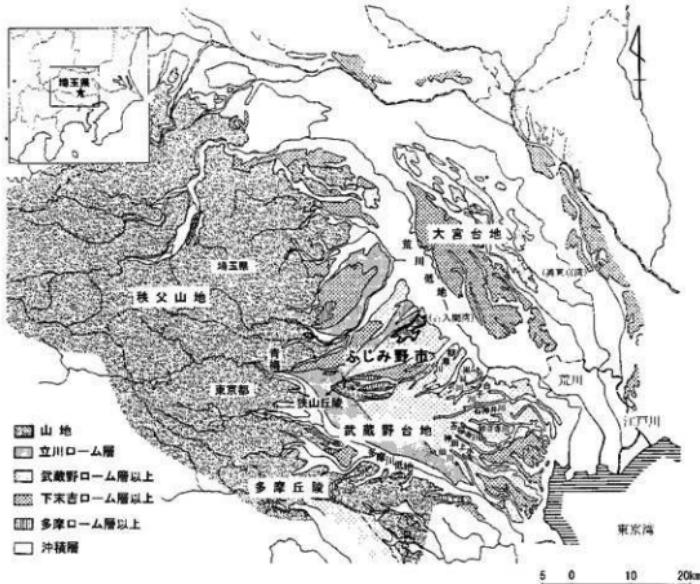
奈良時代（8世紀中葉）、東台遺跡に製鉄遺跡が現

れ、9世紀前半まで続く。

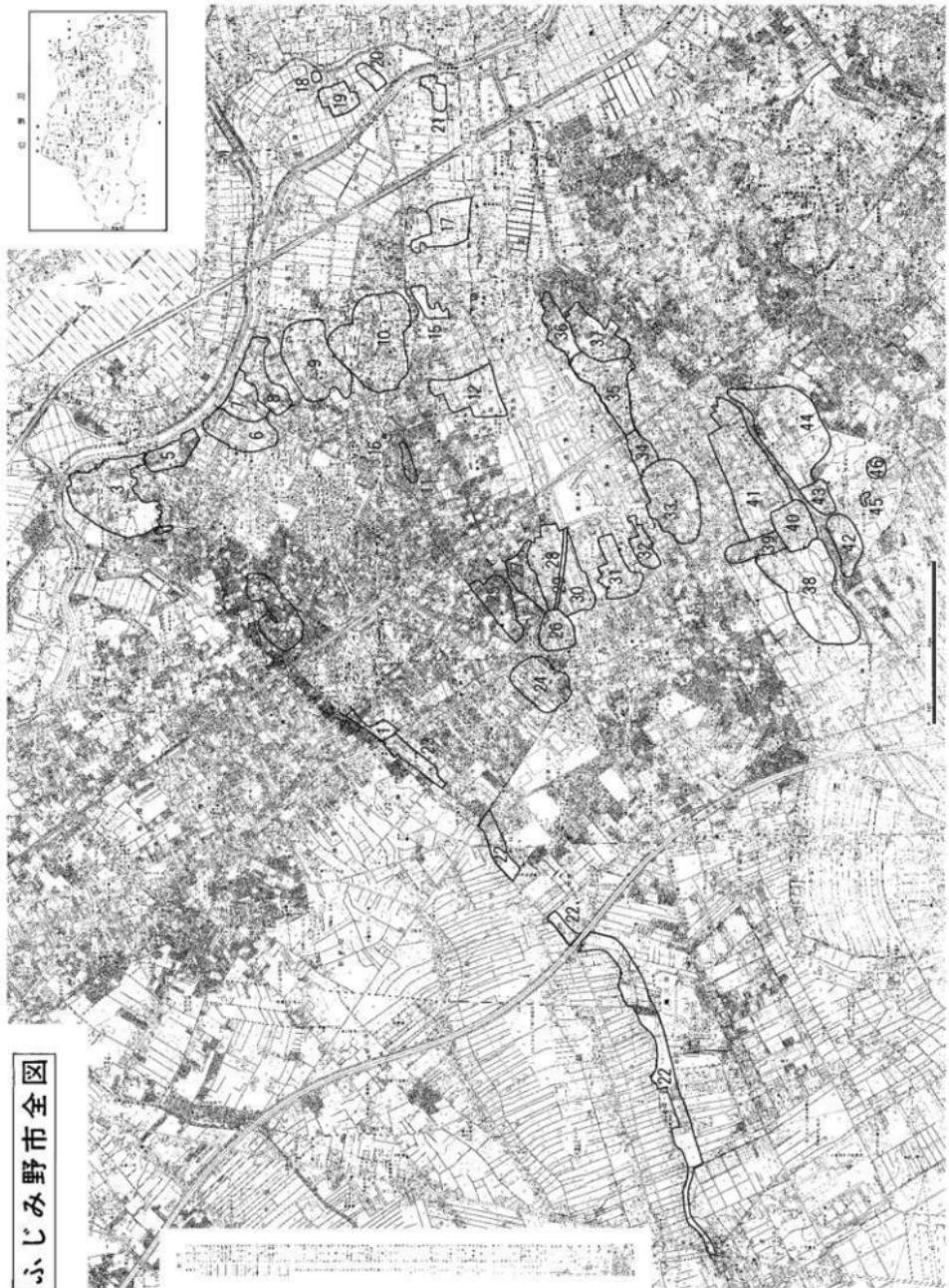
【中世】駒林遺跡では14世紀代の蔵骨器が埋納された葺石墳墓を検出した。長宮遺跡、松山遺跡、本村遺跡等で13~16世紀代の遺物を伴う遺構を検出する。特に本村遺跡では遺構を多数検出するようになり、15世紀以降中世集落が発展していったと思われる。16世紀後半から17世紀前半にかけては川崎遺跡、長宮遺跡、松山遺跡、神明後遺跡、淨禪寺跡遺跡などで屋敷地と思われる遺構を検出し、「新田」といった地名と共に開発の歴史を偲ばせる。特に城山遺跡は荒川低地の自然堤防上に立地し、周囲を方形に堀跡で囲まれ、中世から近世の居館跡と思われる。

また、松山遺跡、駒林遺跡、亀久保堀跡遺跡、神明後遺跡では時期不詳の長大な堀跡が検出されている。

【近世】近世以降の遺跡は、多数の遺跡で遺物などが確認されている。中でも、川越街道沿い大井宿の範囲にある大井氏館跡遺跡、大井戸上遺跡や大井宿遺跡、亀久保村地蔵院の江川南遺跡、旧苗間村の寺院跡である淨禪寺跡遺跡、新河岸舟運で栄えた福田屋などまとった遺構と遺物が確認されている。



第1図　ふじみ野市の位置と周辺の地形



第4表 ふじみ野市遺跡一覧表

No.	遺跡名	主な時代	遺跡番号	No.	遺跡名	主な時代	遺跡番号
1	西 遺 跡	縄文中期の集落跡	25-001	24	亀 居 遺 跡	旧石器、縄文前期・中期の集落跡	30-030
2	北 野 遺 跡	縄文中期の散布地	25-002	25	鶴ヶ舞 遺 跡	旧石器、縄文中期・奈良・平安の集落跡	30-046
3	川 崎 遺 跡	旧石器、縄文前期・中期、古墳前期・中期、奈良・平安の集落跡	25-003	26	江 川 南 遺 跡	旧石器、縄文中期・中・近世の集落跡	30-007
4	川崎横穴墓群	古墳後期の横穴墓	25-004	27	江 川 東 遺 跡	奈良・平安、近世の集落跡	30-045
5	ハ ケ 遺 跡	縄文中期の集落跡・奈良・平安の集落跡	25-005	28	東 久 保 遺 跡	旧石器、縄文中期・近世の集落跡	30-009
6	上 福 四 具 墳	縄文前期・古墳前期・奈良・平安の集落跡	25-006	29	亀久保堀跡	中世の堀跡	30-006
7	椎 現 山 遺 跡 (古墳群)	古墳前期の集落跡・古墳群	25-007	30	東 久 保 二 遺 跡	旧石器、縄文早期・中期、近世の集落跡	30-042
8	滝 遺 跡	古墳前期・中期・奈良・平安の集落跡	25-008	31	東 中 学 校 西 遺 跡	縄文早期・中期・近世の集落跡	30-008
9	長 宮 遺 跡	縄文前期・中・近世の集落跡	25-009	32	東 久 保 南 遺 跡	旧石器、縄文早期・中期、近世の集落跡	30-032
10	松 山 遺 跡	奈良・平安の集落跡	25-010	33	西 ノ 原 遺 跡	旧石器、縄文早期・中期・後期、奈良・平安～近世の集落跡	30-001
11	富士見台横穴墓群	古墳後期の横穴墓	25-011	34	中 沢 前 遺 跡	縄文早期・中期・近世の集落跡	30-044
12	駒 林 遺 跡 (駒林中世墳墓)	中世の堀跡、中世の墳墓(駒林中世墳墓)、中世墳墓・駒林新田前遺跡を2007年に統合)	25-013	35	神 明 後 遺 跡	旧石器、縄文早期～後期、奈良・平安～近世の集落跡	30-041
15	福 国 新 田 遺 跡	散布地	25-015	36	苗 間 東 久 保 遺 跡	旧石器、縄文早期～後期	30-020
16	福 遺 跡	古墳後期の横穴墓	25-023	37	淨 神 寺 徒 遺 跡	旧石器、縄文早期・中期、中・近世の集落跡	30-022
17	鶯 森 遺 跡	縄文前期の集落跡	25-017	38	小 田 久 保 遺 跡	旧石器、縄文早期・中期、中・近世の集落跡	30-040
18	天 神 遺 跡	古墳中期の散布地	25-018	39	大 井 宿 遺 跡	近世～近代の宿場跡	30-010
19	城 山 遺 跡	中・近世の堀跡	25-019	40	大 井 戸 領 遺 跡	旧石器、縄文前期・中期、中・近世の集落跡	30-037
20	川 袋 遺 跡	奈良・平安の散布地	25-020	41	本 村 遺 跡	旧石器、縄文早期・後期、中・近世の集落跡	30-034
21	伊 佐 島 遺 跡	古墳前期・平安の集落跡	25-021	42	西 台 遺 跡	旧石器、縄文中期、奈良・平安、近世の集落跡	30-039
22	鶴ヶ岡外 遺 跡	旧石器、縄文早期の集落跡	30-036	43	大 井 戸 上 遺 跡	旧石器、縄文前期・中期、近世の集落跡	30-014
23	鶴ヶ岡 遺 跡	旧石器、縄文早期・中期の集落跡	30-047	44	東 台 遺 跡	旧石器、縄文早期・中期、奈良・平安～近世の集落跡、製鉄遺跡	30-024
				45	大 井 宿 戸 戸 遺 跡	近世～近代の宿場跡	30-027
				46	石 塔 煙	中世の散布地	

第5表 縄文時代中期時期細分対比表

本書 2007 ①	宮原子昭二 鈴木・山本 1988 ②	植木 弘 1994 ③	黒尾和久 1995 ④	谷井 他 1982 ⑤	考古学協会 1981 ⑥	
務沢・阿玉台Ⅰ古	阿玉台Ⅰ古	阿玉台Ⅰ古・務沢	務沢・阿玉台Ⅰ	阿玉台Ⅰb前 Ⅱ期 Ⅲ期 Ⅳ期 Ⅴ期 Ⅵ期	Ⅱ期 阿玉台Ⅰb出現期 Ⅲ期 (勝坂最古段階) Ⅳ期 (勝坂盛時段階) Ⅴ期 (勝坂終末)	
勝坂Ⅰ古・翻訳・阿玉台Ⅰ古	勝坂Ⅰ古	勝坂Ⅰ様式	中前 Ⅱ Ⅲ Ⅳ Ⅴ Ⅵ	阿玉台Ⅰb後 Ⅴa Ⅵ Ⅶ		
勝坂Ⅰ古・翻訳・阿玉台Ⅰ古	勝坂Ⅰ古	II様式	1a新 1b			
勝坂Ⅰ古・翻訳・阿玉台Ⅰ古 Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ・Ⅵ	勝坂Ⅰ古	III様式	2a古 2a新			
勝坂Ⅰ古・翻訳・阿玉台Ⅰ古 Ⅳ・Ⅴ・Ⅵ	勝坂Ⅰ古	IV様式	2b 3a 3b古			
勝坂Ⅰ古・翻訳・阿玉台Ⅰ古 Ⅴ・Ⅵ	勝坂Ⅰ古	V様式	3b新			
加曾利E I古	加曾利E I様式	加曾利E I直前b	a坂		加曾利E I古	
古相	古相	加曾利E 2様式	c 1 2 3 4	E 1a 1b 1c 2a 2b 2c古 2c新 3a 3b 3c	IXa IXb X	加曾利E I新
加曾利E I新 中相 新相	加曾利E I新 中相 新相	加曾利E I式	1 2 3 4 半	E 1a 1b 1c 2a 2b 2c古 2c新 3a 3b 3c		
古相	古相	加曾利E 3様式	1 2 3 3相	E 1a 1b 1c 2a 2b 2c古 2c新 3a 3b 3c	XI XIIa XIIb	加曾利E II
加曾利E II 中相 新相	加曾利E II 中相 新相	加曾利E II式	1 2 3 3相	E 1a 1b 1c 2a 2b 2c古 2c新 3a 3b 3c		
加曾利E III		a 加曾利E 4様式	1 2	E 1a 1b 1c 2a 2b 2c古 2c新 3a 3b 3c	III	加曾利E III
加曾利E IV		b 加曾利E 4様式	1 2 3 4	E 1a 1b 1c 2a 2b 2c古 2c新 3a 3b 3c	IV	加曾利E IV

第2章 西遺跡の調査

I 遺跡の立地と環境

西遺跡は、藤間江川に面した標高22mの台地北縁、低地との比高差8m以上の急峻な崖面上に立地する南北150m、東西200m以上の遺跡である。上福岡駅まで600m位置する利便性のため、早くから宅地開発されるが、一部は畑、牧場等が残っていた。

周辺の遺跡は、上流に隣接して旧石器時代の縄群・石器群が広がる鶴ヶ岡遺跡、川越市八幡神社遺跡、最上流に鶴ヶ岡外遺跡がある。また、藤間江川の支谷をはさんだ対岸には川越市藤原町遺跡があり、八幡神社遺跡とともに縄文時代の集落が広がる。さらに下流に向かうと、「川崎貝塚」として著名な川崎遺跡、川崎横穴墓群があり、旧石器時代から縄文、古墳、飛鳥・奈良・平安、中近世にわたる複合遺跡となる。

1992年3月、駐車場造成に伴い約3,000m²が発掘調査され、縄文時代中期中葉の勝坂期～加曾利EⅠ期の住居跡17軒、集石土坑、土坑等を検出、1996年の第2・3次調査でも縄文時代中期勝坂期の住居跡を検出し、弧状に分布する縄文集落が明らかとなってきた。2007年月現在、13ヶ所で試掘及び発掘調査が行われ、時期不明の溝跡なども検出している。主たる時代は縄文時代中期である。

II 西遺跡第1地点

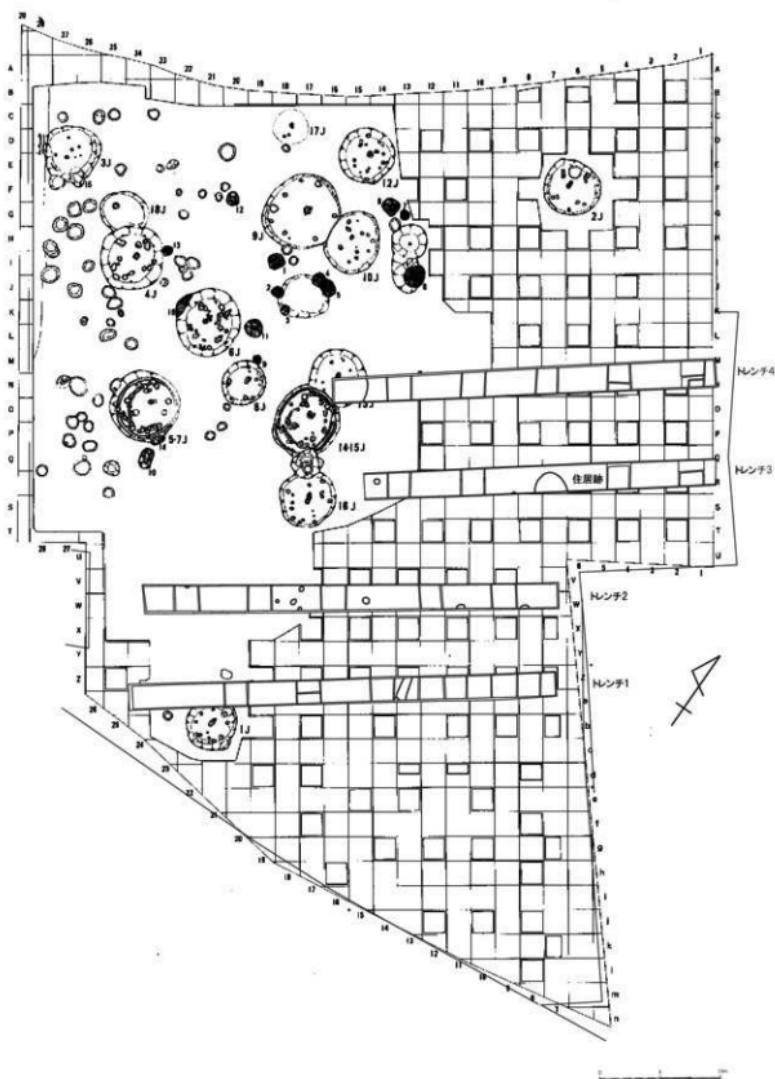
調査は共同住宅の建設に伴うもので、原因者より2007年（平成19年）1月25日付けで、「埋蔵文化財包蔵地の開発行為事前協議書」（以下「埋蔵文化財事前協議書」）がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は1992年に「西遺跡第1次調査」として調査済みであるが、当時の開発は駐車場造成のため、遺構保存として試掘調査のみを行なった未調査区域があり、特に旧石器時代の遺構については未確認である。今回開発申請したマンション建設ではローム面の掘削も予定されているため、旧石器時代と未調査部分の確認を主眼に再調査することとなった。

試掘調査は2007年3月12日から同年4月20日まで行なった。幅約2mのトレーナーを4本設定し、重機による表土除去後、人力による表面精査を行った。前回調査した住居跡の他、新たな住居跡、集石を検出した。そこで申請者と協議した結果、開発の変更ができないため、原因者負担による本調査を実施することになった。写真撮影・全測図作成等記録保存を行い、試掘調査を終了した。

本調査は2007年6月4日から8月1日まで、ふじみ野市教育委員会が行い、縄文時代の遺構と遺物を調査した。



第3図 西遺跡の地形と調査区（1/4,000）



第4図 西遺跡第1地点遺構配置図（1/400）

I 遺跡の立地と環境

北野遺跡は、藤間江川に面した標高17~18mの台地縁辺にあり、開析した小支谷を開くように立地する南北250m、東西650m以上の遺跡である。上福岡駅まで600mに位置する利便性のため、昭和30年代から宅地開発され、ほとんど空き地は残っていない。

周辺の遺跡は、1km上流に绳文集落の西遺跡、下流に旧石器時代から绳文、古代、中近世にわたる複合遺跡の川崎遺跡、川崎横穴墓群がある。

1965年の分布調査、1970年代後半の宅地開発で绳文時代早~中期の土器片が採集され、1980年以來14ヶ所で試掘調査が行われ、時期不明の土坑を検出している。主たる時代は绳文時代中期である。

II 北野遺跡第1地点

調査は分譲住宅の建設に伴うもので、原因者より2006年3月23日付けで「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は小支谷に北面しているため、申請者と協議の結果、遺構の存在

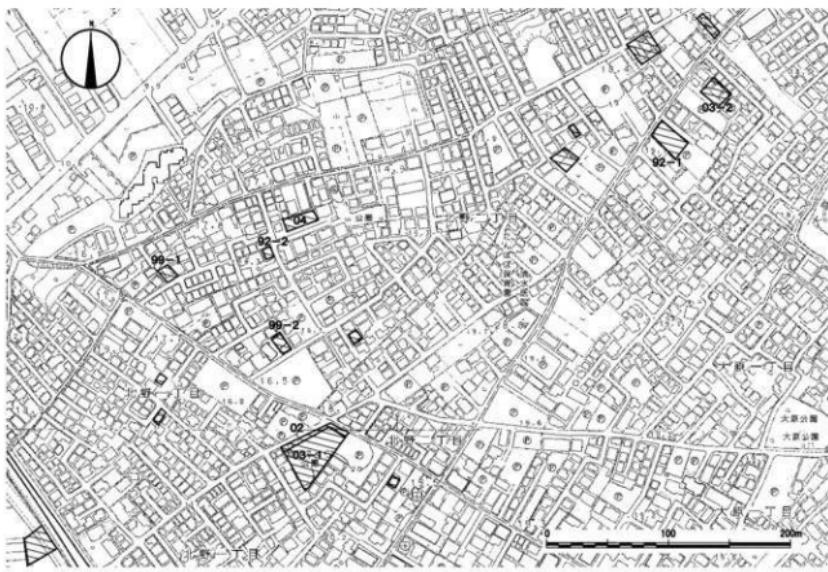
を確認するために試掘調査を実施した。

試掘調査は2006年4月7日に、 $2 \times 2\text{ m}$ のグリッドを11ヶ所設定し、人力により表土除去と表面精査を行ったが、遺構・遺物は確認できなかった。旧石器時代の確認調査はしていない。写真撮影・全測図作成等記録保存を行なったうえ埋め戻し、調査を終了した。

III 北野遺跡第2地点

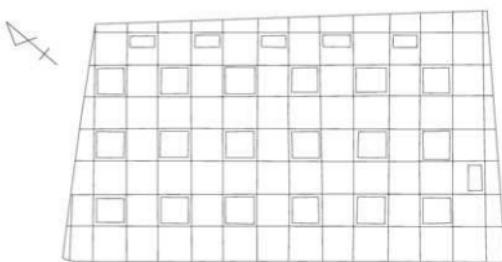
調査は個人専用住宅の建設に伴うもので、原因者より2006年7月24日付けで「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は藤間江川に面した斜面地に立地しているため、申請者と協議の結果、遺構の存在を確認するために試掘調査を実施した。

試掘調査は2006年8月4日に $2 \times 2\text{ m}$ のグリッドを5ヶ所設定し、人力により表土除去と表面精査を行ったが、遺構・遺物は確認できなかった。旧石器時代の確認調査はしていない。写真撮影・全測図作成等記録保存を行なったうえ埋め戻し、調査を終了した。

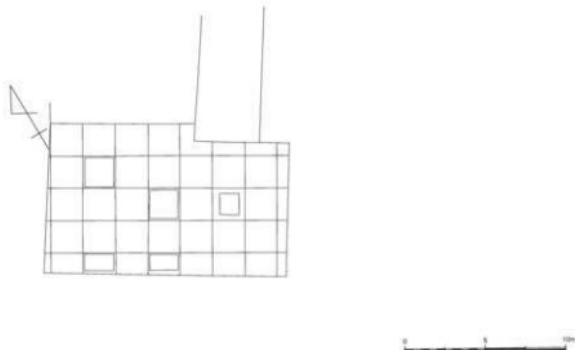


第5図 北野遺跡の地形と調査区（1/4,000）

北野遺跡第1地点



北野遺跡2地点



第6図 北野遺跡第1・2地点調査区域図(1/300)

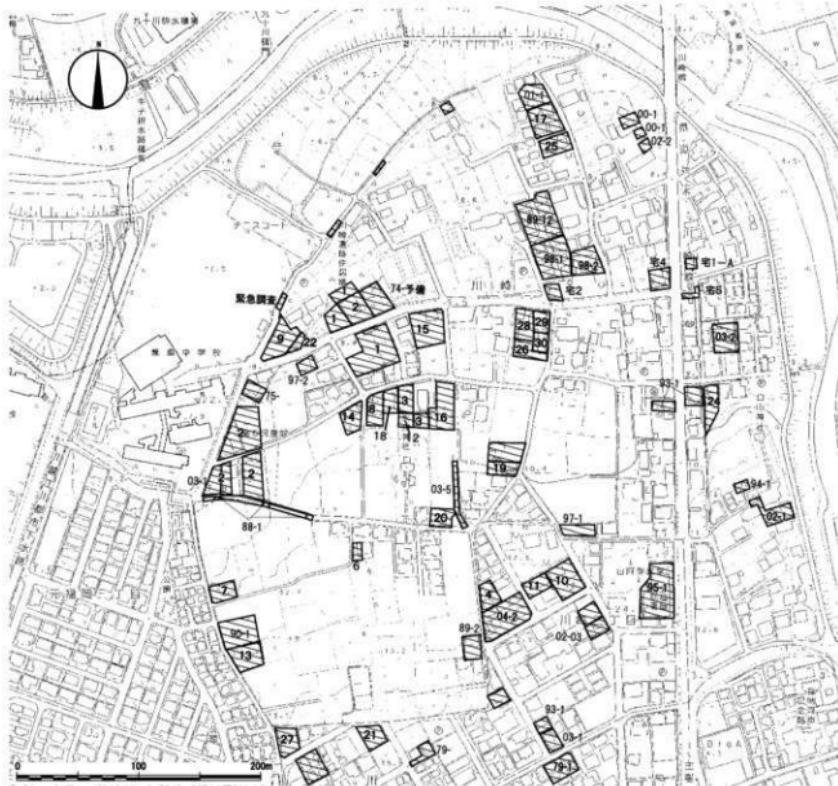
第4章 川崎遺跡の調査

I 遺跡の立地と環境

川崎遺跡は、武藏野台地の北東端、荒川低地に舌状に突き出た武藏野段丘面の、いわゆる川崎台に立地している。台地の北を東流してきた藤間江川は舌状台地の西側で新河岸川に合流し、かつては台地の先端より北東方向へ大きく蛇行していた新河岸川は、現在は台地東縁をなめるように流れる。台地の幅は400~500m、台地の基部から先端へ1kmにわたり緩やかに傾斜しており、標高は最南部で18m、最北部では8mを測る。遺跡の範囲は南北600m、東西500m以上ある。虫食い状に宅地開発されるが、畠も良く残っている。

周辺の遺跡は、舌状台地の西側基部の急斜面上部に川崎横穴墓群が隣接し、東側基部に绳文時代、古墳、奈良・平安時代のハケ遺跡がある。

1917年（大正6年）台地の先端部で貝層が確認され1928年（昭和3年）の調査では川崎貝塚として報告された。1967年以来住宅地開発等に伴う緊急調査が増加し、1980年以来58ヶ所で調査が行われ、37ヶ所で遺構が確認されている。主たる時代と構造は绳文時代早期の炉穴、早期から前期及び後期の住居跡、古墳時代住居跡、飛鳥時代住居跡、奈良時代住居跡、平安時代住居跡・掘立柱建物跡、中世以降の溝跡、地下式坑である。



第6表 川崎遺跡調査一覧表

地点	所在地	調査期間 () 日式調査	面積 (m ²)	調査原因	確認された遺構と遺物	所取報告書
予備免査調査 (新規B宅)	川崎160	1974.3.25~4.4	84	1次満査に先立ち付有状況把握	卯文3、土坑2、ビット群、純文土器、石器	上福岡市遺跡調査報告書
1次	川崎162~176	1974.7.20~9.19 (予定 2,510)	1,800	5ヶ月計画による事前満査	住居跡11(純文前期3、古墳前期1、国分7)、溝3、溝2 土坑5、地下式坑6、集石1	川崎遺跡第1次調査報告
緊急免査調査 (新規B宅)	大字川崎字宮後168-3	1975.3.30~5.10	198.53	個人住宅建設	溝3、純文土器、石器、平安土師器、須恵器、灰釉陶器、布目瓦、瓦等	上福岡市遺跡調査報告書
宅地添1火 (A地区)	大字川崎字宅添122	1975.6.8~29	50	個人住宅建設	純文早期住居1、純文土器、石器、雜	上福岡市遺跡調査報告書
2次	川崎137~174	1975.9.4~12.5	3055	5ヶ月計画による事前調査	純文住居9、古墳住居6、奈良平安住居10、中世遺構数	川崎遺跡第2次調査報告
3次	川崎149-6	1977.11.1~12.3	300	住宅建設	純文住居3(7,8)、奈良平安住居(1,2,4~6,9)、既 土敷6、柱穴、溝	川崎遺跡(第3次) ・長宮跡
宅地添2火 (B地区)	川崎198	1978.5.15~25	170	宅地造成	土坑3、ビット	埋蔵文化財の調査(1)
宅地添3火 (C地区)	川崎230	1978.5.23~31	130	宅地造成	井戸跡2、地下式坑1、溝1	埋蔵文化財の調査(1)
4次	川崎2-5-2	1979.4.19~5.11	304	宅地造成	純文前期住居1、溝1黒衣土器、貝類	埋蔵文化財の調査(1) ・埋蔵文化財の調査(1)
5次	川崎1-4-4	1979.9.26~10.10	152	宅地造成	溝状遺構	埋蔵文化財の調査(1)
1979年試 (見入)	見入4-3-11	1979.11.12~19	260	宅地造成	溝1	埋蔵文化財の調査(1)
6次	川崎102-5	1979.12.3~8	30	プレハブ床下建設	純文前原住居2、純文土器群、平安住居2	埋蔵文化財の調査(1)
7次	川崎124-3	1981.11.27~30	316	個人住宅建設	造痕なし、平安土器片	埋蔵文化財の調査(1)
8次	大字川崎字宮前148-1	1984.1.17~26	400	住宅建設	既存住居1	埋蔵文化財の調査(1)
宅地添4火	川崎宅地添219	1984.9.25~10.9	301	住宅建設	純文住居1、平安住居1	埋蔵文化財の調査(1)
9次	川崎字宅前1172-1,2	1986.9.11~20	495	個人住宅建設	溝2、純文後、晚唐、平安土器散布	埋蔵文化財の調査(1)
10次	川崎22-1	1987.11.24~30	603	個人住宅建設	溝1	埋蔵文化財の調査(1)
11次	川崎2-6-2	1988.5.10~17	289	住居建設	なし	埋蔵文化財の調査(1)
1988年試 (見入2号機)	市道602号機	1988.9.19~21	60	下水道設置	住居1	埋蔵文化財の調査(1)
1989年試(1)	川崎字宅地添196-1	1989.4.10~18	1045	住宅建設	なし	埋蔵文化財の調査(1)
1989年試(2)	川崎字宅前98-2	1989.10.3~6	264	住宅建設	なし	埋蔵文化財の調査(1)
12次	川崎字宅前149-5~9	1990.4.20~27	311	住宅建設	溝2	埋蔵文化財の調査(1)
13次	大字川崎字宮前122	1990.5.1~17	480	住宅建設	奈良住居1	埋蔵文化財の調査(1)
1990年試(1)	大字川崎字宮前122	1990.5.18~23	530	範囲確認調査	なし	埋蔵文化財の調査(1)
14次	大字川崎字宮前145	1990.10.1~31	499	住居建設	純文前原住居1、貝殻、平安住居1	埋蔵文化財の調査(1)
15次	川崎字宅後1360-1	1991.10.23~11.20	496	個人住宅建設	平安住居7、土坑1	埋蔵文化財の調査(1)
1992年試(1)	大字川崎字山野9-5	1992.2.18~19	168	店舗併用住宅	なし	埋蔵文化財の調査(1)
1993年試(1)	川崎2-2-10,11	1993.8.24	131	個人住宅建設	なし	埋蔵文化財の調査(1)
1993年試(2)	川崎1-1-1の一部	1993.9.10~13	422.37	個人住宅建設	なし	埋蔵文化財の調査(1)
1994年試(1)	川崎字宅258号1番	1994.11.17~24	230	機械置場設置	なし	埋蔵文化財の調査(1)
1995年試(1)	川崎2-7-2,3	1995.10.13~16	1126.34	消防署署設置	なし	埋蔵文化財の調査(1)
16次	川崎字宇宮150-2,3	1995.12.11~1996.3.8	828	駐車場及び賃貸 農場敷設	純文前原(黒浜層)大形住居1、同期住居跡2、土坑2、平安住居跡4、掘立柱建物6、中世空穴状遺構2	7年度教育要覧
17次	川崎字宇宮304の一部	1996.7.15~23	779.60	個人住宅建設	平安住居1	埋蔵文化財の調査(1)
18次	川崎字宇宮18-3	1996.11.18~25	198	個人住宅建設	溝1(時局不明)	埋蔵文化財の調査(1)
1997年試(1)	川崎字山田21	1997.4.14	367.21	宅地造成	溝1(時局不明)	埋蔵文化財の調査(1)
1997年試(2)	川崎字山田1165-6	1997.10.20	204.34	個人住宅建設	なし	埋蔵文化財の調査(1)
1997年試(3)	川崎字宇宮309-1,2,5	1998.2.12~16	780.36	個人住宅建設	なし	9年度教育要覧
1998年試(1)	川崎字宅前197-1	1998.10.27~11.6	996.09	宅地造成	純文前原住居1ほか	埋蔵文化財の調査(1)
市道402号機	川崎字宇前、京島地内	2000.2.21~25	496	純文前原住居1	11年度教育要覧	
2次						
2000年試(1)	大字川崎字地添209の一部	2000.6.19~22	123.3	個人住宅建設	貝殻の一部	埋蔵文化財の調査(1)
西側縦溝調査	川崎字宅地添209	2001.6.12~25	100	幸手建設	溝1	埋蔵文化財の調査(1)
19次	川崎字宇宮157の一部	2001.9.18~10.4	289.2	個人住宅建設	平安初頭住居1	埋蔵文化財の調査(1)
2001年試(1)	川崎字宇宮204-1	2001.10.29~30	825.42	宅地造成	なし	埋蔵文化財の調査(1)
2002年試(1)	川崎249-1の一部	2002.5.13	341.32	倉庫建設	なし	埋蔵文化財の調査(1)
2002年試(2)	川崎210-1の一部	2002.10.26,29	551	共同住宅建設	溝1【歴史保存】	埋蔵文化財の調査(1)
2002年試(3)	川崎2-4-16	2002.12.24	228	個人住宅建設	なし	14年度教育要覧
2002年試(4)	川崎2-2-12	2003.3.13	165	個人住宅建設	なし	14年度教育要覧
2002年試(5)	川崎字宇宮155先	2003.3.26	164	透造切妻造工事	なし	14年度教育要覧
2003年試(1)	川崎137-1の一部	2003.8.6,7	257.5	個人住宅建設	なし	埋蔵文化財の調査(1)
2003年試(2)	川崎字宇宮236-14	2003.12.6,19	381	個人住宅建設	なし	埋蔵文化財の調査(1)
宅地添5火	川崎字宅地添223-3先	2004.2.16~18	88	古墳初期堅穴住居1【調査実施】		15年度教育要覧
2004年試(1)	川崎字宇宮157-1の一部	2004.6.14,15	421	個人住宅建設	平安初期堅穴住居のカマドの一部	埋蔵文化財の調査(1)
2004年試(2)	川崎2-5-1	2004.11.1~4	881	宅地造成	なし	埋蔵文化財の調査(1)
20次	川崎字宇宮153-5	2005.11.28~ 12.2(11.22~27)	257	個人住宅建設	古墳住居1	市内遺跡群
21次	川崎1-6-10	2006.4.14~ 20(2006.4.11)	298	個人住宅建設	奈良住居1、清出	市内遺跡群
22次	川崎171-1,174-10	2007.4.16~23	104	消防分骨倉庫	中世地下式坑1、近世地下室1	
23次						
24次	川崎字宅地添225番3	2007.10.4確認調査	319	確認調査	なし	

Ⅱ 川崎遺跡第21地点

(1) 調査の概要

調査は個人専用住宅の建設に伴うもので、原因者より2006年3月28日付けで「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は台地の西端に近い台地上に立地しているため、申請者と協議の結果、遺構の存在を確認するため試掘調査を実施した。

試掘調査は2006年4月11日に 2×2 mのグリッドを14ヶ所設定し、人力により表土除去と表面精査を行つ

た。その結果、奈良・平安時代の遺構・遺物を確認したが、遺構確認面まで30cmと浅く、工事による掘削が遺構に影響を与える為、本調査を行なうこととなった。なお、旧石器時代の確認調査はしていない。

本調査は2006年4月14日から同年4月20日まで、試掘調査で確認した遺構の場所を人力で表土除去後調査を行なった。調査の結果、平安時代の住居跡1軒、溝跡1条を検出し、写真撮影・全測図作成等記録保存を行なったうえ埋め戻し、調査を終了した。

第7表 川崎遺跡古代住居跡一覧

(単位:cm)

番号	調査年度	調査名	調査年	平面形 ()は推定	規模	印 キヤウ	設置場 地床印	カマド復原cm 通道 幅	開溝	主軸方位	時期	備考	文献
1	1974	第1次LN72	完掘	隅丸方形	290×230×40	印	地床印	60×50cm	○	N=60-E	3世紀末~ 4世紀初頭	指定期文化財	川崎遺跡第1次調査
2	*	第1次LN05	完掘	方形	300×320×	K			○	N=5-E	国分	*	
3	*	第1次LN06	完掘	倭んだ方形	220×320×	K	東		○	N=13-W	9C 4半期	*	
4	*	第1次LN07	完掘	方形	320×320×	K	東	80	○	N=83-W	9C 中期	*	
5	*	第1次LN23	完掘	長方形	420×310×50	K	北	120	○	N=5-E	10C 1半期	*	
6	*	第1次LN25	完掘	方形	320×300×	K	北	40	○	N=42-E	9C 1半期	*	
7	*	第1次LN28	西側削除	(長方形)	>300	K	東	50	○	N=69-W	9C 3半期	*	
8	*	第1次LN71	東側削除	(方形)	>600							*	
9	1975	第1次LN75	部分	(長方形)									川崎遺跡第2次調査
10	*	第1次LN59	部分	(長方形)							10C 1半期	*	
11	*	第2次LN72	完掘	隅丸方形	250×250×13	K	南	50	○	N=18-E	国分	*	
12	*	第2次LN07	完掘	方形	220×720	K	北		○	N=32-E	6C 後半	ピット多量土甃	*
13	*	第2次LN04	完掘	方形	390×350	K	東	60	○	N=64-E	6C 前半	町塚穴有り	*
14	*	第2次LN05	完掘	長方形	450×320	K	北	100	○	N=1-E	10C 2半期	*	
15	*	第2次LN19	辺境切らみ	方形	300×300	K	東		○	N=2-E	9C 4半期	支撑がたつたまま	*
16	*	第2次LN14	完掘	長方形	370×260	K	北	90	○	N=4-E	9C 3半期	*	
17	*	第2次LN12	南側削除	長方形	200×						6C	防護壁	*
18	*	第2次LN33	辺境切らみ	方形	300×300								*
19	*	第2次LN06	完掘	隅丸方形	410×420	K	北東		○	N=45-E	6C 後半	良好	*
20	*	第2次LN22	完掘	長方形	410×330	K	北	120	○	N=29-W		*	
21	*	第2次LN58	完掘	長方形	350×280	K	東	70	○	N=87-E	10C 2半期	辺境を切る	*
22	*	第2次LN24	部分	方形	320×320	印	地床印	60	○		五箇	*	
23	*	第2次LN20	3/5	(長方形)	>350	K	北		○	N=23-E	9C 2半期	鍛冶工房跡	*
24	*	第2次LN21	1/4は完掘	正方形	360	K	北西	50	○	N=43-W	鬼高	*	
25	1977	第3次1号住居	雨蓋附のみ	(長方形)					○				川崎遺跡第3次
26	*	第3次2号住居	完掘	長方形	350×330	K	北	70	○		国分	鉄製品多い	
27	*	第3次3号住居	(完掘)	長方形	350×400	K	東	170	○		国分	*と解説書19 *と理文調査19	
28	*	第3次5号住居	4/5	正方形	350×320	K	東	120	○		国分		
29	*	第3次6号住居	4/5	正方形	440×	K	北	155	○		9C 4半期	鍛冶家跡	*
30	*	第3次9号住居	1/2	(長方形)	415×				○		国分		*
31	1979	第9次1B号住居			340×				○		9C 2半期		
32	*	第9次2号住居	1/3		340×	K	北→東	140	○		9C 1半期	鉄製品多い	*
33	1984	庵地跡第4号	完掘	正方形	340×340	K	東	200	○		8C 3半期	理文文化財の調査種	
34	1990	第13次1号住居	1/2~1/3		390×	K			○		7C 後半	理文文化財の調査13	
35	*	第14次2号住居	南1/2		340×	K	東		○		9C 1半期		*
36	1993	第15次1号住居			395×285	K	北東		○		9C~10C	理文文化財の調査14	
37	*	第15次2号住居		正方形	380×380	K	東		○		9C 中期		
38	*	第15次3号住居		正方形	265×430	K	南東		○		9C 初頭		
39	*	第15次4号住居	1/2	正方形	580×	K	東		○		8C末~9C初頭		
40	*	第15次5号住居	3/4		280×	K	北		○		9C 前半~中		
41	*	第15次6号住居		正方形	425×220	K	北		○		8C 後半	33.6住と重複	*
42	*	第15次7号住居	1/2	正方形	570×	K	北		○		9C 前半	軽軸陶器	焼失家跡
43	1994	第16次1号住居	1/2		450×				○		9C 前半~後半		未報告
44	*	第16次2号住居	北西隅のみ						○		9C 前半~後半		*
45	*	第16次5号住居	2/3		440×	K	東		○		9C 前半~後半		*
46	*	第16次6号住居	カマドのみ			K	東						*
*	第16次1号住居	2/3	長方形										*
*	第16次2号住居	西側柱のみ	長方形										*
*	第16次3号住居	完掘	長方形	南北2間									*
*	第16次4号住居	完掘	長方形	南北2間									*
*	第16次5号住居	1/2	長方形	南北2間									*
*	第16次6号住居	完掘	長方形	南北2間									*
47	1996	第17次1号住居	完掘	長方形	400×400	K	東		○		国分	墨書き土器	理文文化財の調査19
48	*	第18次2号住居	完掘	長方形	300×300	K	東		○		国分		理文文化財の調査19
49	2000	第19次1号住居	1/2		360×	K			○		9C 前半		理文文化財の調査24
50	2006	第20次1号住居	完掘	長方形	320×350	K	北西		○	N=45-W	7C 前半~中		市内遺跡群1
51	2006	第21次1号住居	完掘	長方形	410×365×10	K	東	145	125	○	N=106-E	9C 後半	市内遺跡群3

(2) 遺構と遺物

① H51号住居跡

【位置】調査区の南側に位置する。遺跡全体の分布では南端に位置する。

【形状】主軸方位はN-106°-E、東側に竈を備える。平面形態は方形で竈の北側に張り出し部がある。規模は主軸方位の張り出し部まで含めて東西4.10m、南北3.65m、確認面からの深さ0.10mで、耕作による削平が深い。竈左側の張り出しが本来の規模で、竈右側は棚状施設の可能性もある。

【竈】住居の東側に付く。竈右側が棚状施設の場合、竈の裾部は構築当初からロームを残し、粘土を貼り付けている。粘土の裾部を含めた竈の規模は幅1.25m、奥行き1.45m、残高0.38mである。竈内部の幅は0.56m、掘り込みは床面から0.21mを測る。

【土坑】竈右側に幅0.70×奥行き0.56×深さ0.24mの円形土坑があり、貯蔵穴と思われる。

【周溝】竈の周囲を除いて巡る。住居北西隅の周溝が切れているが、後世の削平の可能性がある。周溝幅20~40cm、深さ10cm前後である。

【床】竈前面の床は2.1×1.7mの範囲で硬化している。壁際から幅1m程の床面下は、深さ0.06m程荒掘りされた上でローム混じりの黒色土を貼り、床面としている。竈左側の荒掘りは、手前の荒掘りと連続しておら

ず、周溝も一旦途切れた上内側へ向かっている事から、張り出し部分は後に拡張したと思われる。

ピットは床面に2ヶ所、周溝内に1ヶ所検出した。

② 溝

調査区北側の土地境界に沿って溝を検出した。断面形態は「V」字形を呈するが、北側の土地は段切りされて一段低くなってしまい、溝の立ち上がりもその分低くなっている。検出した溝の長さは19.3m、上端幅は5.4m以上、下端幅は0.3m、確認面からの深さ1.39mである。遺物は検出しなかった。

③ H51号住居出土土器 (第9図1~10)

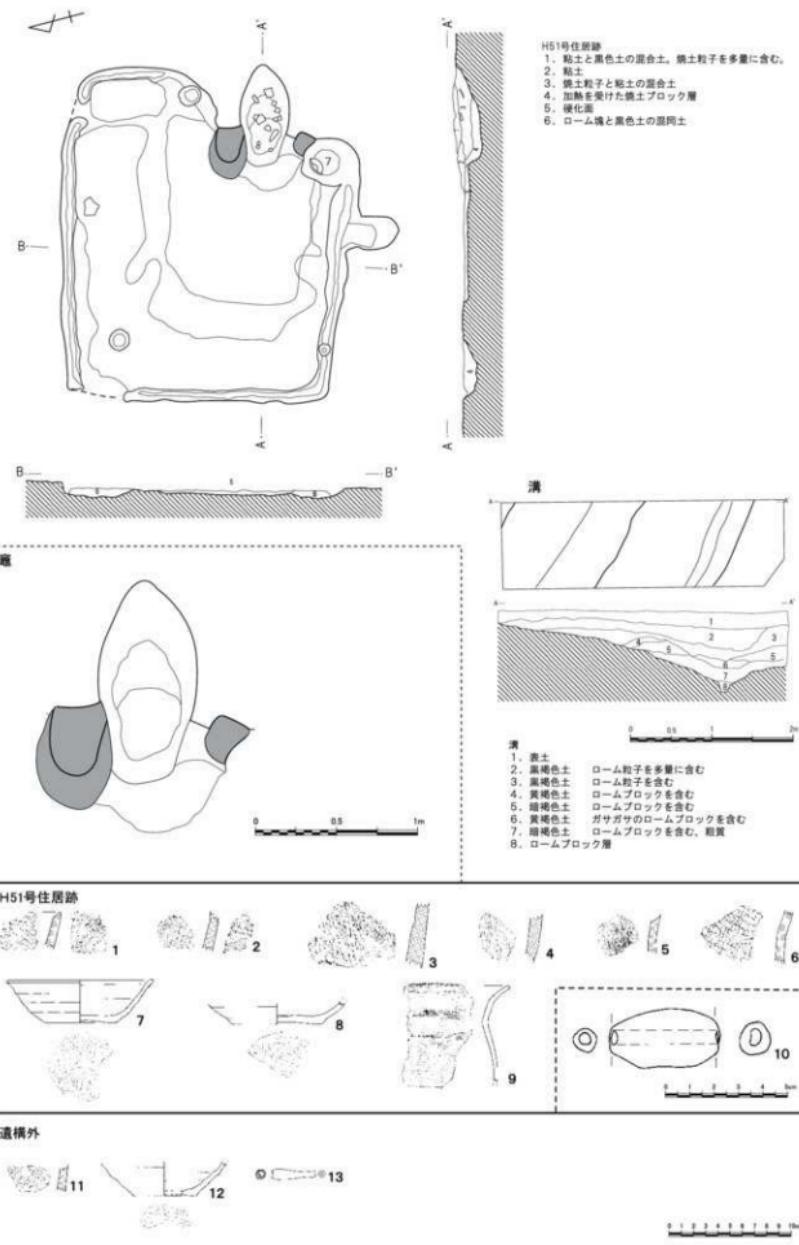
1~6は平安時代の住居に混入した縄文土器片で、胎土に植物繊維を含み、1~4は貝殻条痕をもつ。1の口唇の内側に削りがある。1は子母口式の可能性が高いが、2~5は早期後半のもの。6は条間の広い斜縄文の小片で中期のもの。

7と8は須恵器坏、糸切り離しの底から立ち上がる身部の口縁端が外反し、7は口径11.9cm・底径5.8cmで9世紀後半のものといえる。9は土師器の壺で頭部が明瞭。10は完形の土錐で中彫れの器形である。21地点H51号住居の時期は7と9から9世紀後半の可能性が高い。

11~13は遣構外出土。11は植物繊維を混入する縄文前期前半のもの。12は須恵器底部片。13は煙管吸口。



第8図 川崎遺跡第21地点遺構配置図 (1/300)



第9図 川崎遺跡 H51号住居跡（1/60）竈（1/30）溝（1/100）出土遺物（1/4・1/2）

第5章 ハケ遺跡の調査

I 遺跡の立地と環境

ハケ遺跡は、武藏野台地の北東端、荒川低地に舌状に突き出た武藏野段丘面のいわゆる川崎台の東側付け根に立地している。遺跡の東側は新河岸川が台地縁をなめるように流れ、急峻な崖が形成されている。遺跡の北は落差2m程度のゆるい斜面を形成し、小支谷が北から入る。標高は14~16mを測る。遺跡の範囲は南北360m、東西160m以上ある。宅地開発される遺跡中央に煙が残っている。

周辺の遺跡は、舌状台地の北側に旧石器、縄文、古墳~奈良・平安時代、中世の川崎遺跡が隣接し、台地続きの南東側に縄文時代前期、中期、晚期、古墳時代の著名な上福岡貝塚、椎現山遺跡がある。

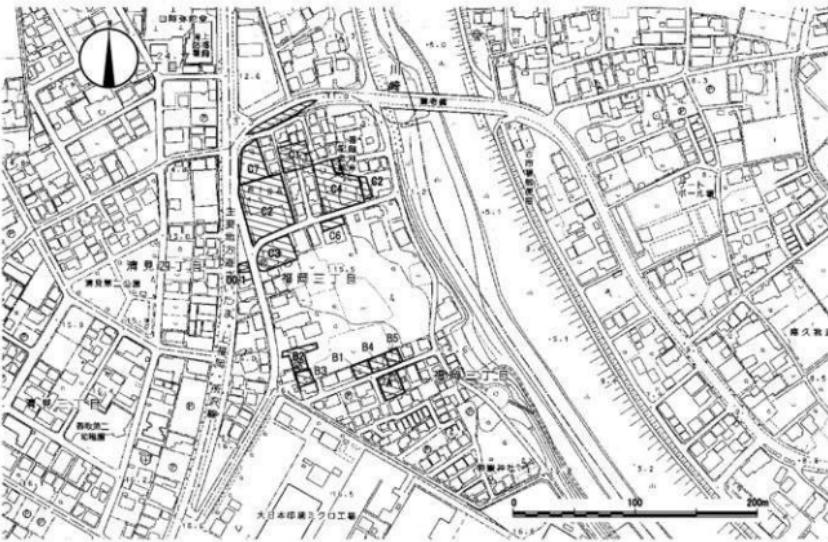
1976年以降宅地開発等に伴う緊急調査が増加し、以来14ヶ所で調査が行われている。主たる時代と遺構は縄文時代前期から後期の住居跡、古墳時代から奈良・平安時代の住居跡・掘立柱建物跡、近世鍛冶遺構（旧福田屋跡）である。なお、本遺跡は便宜上東西に走る道路によって3区分され、南側からA区、B区、C区と呼称されている。

II ハケ遺跡C区7次調査

(1) 調査の概要

調査は再開発に伴うもので、原因者より2006年6月7日付けで「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡北端の台地上に立地し、南側と東側の隣接地で住居跡を検出しているため、申請者と協議の結果、遺構の存在を確認するために試掘調査を実施した。

試掘調査は2006年7月11日から同年7月14日まで行った。幅約2mのトレンチ4本を設定し、重機で表土除去後、人力による表面精査を行なった。調査の結果、住居跡らしき遺構覆土を検出したので、さらに遺構の深さや時期などを確認するため、一部掘り下げたところ、縄文時代中期の住居跡2軒、奈良・平安時代の住居跡4軒、溝等を確認した。立木のため試掘できなかった未確認区域がこのこと。特に南側には住居跡等の更なる存在が予測される。30~45cm厚の盛土があり、確認面まで75cmを測る。なお、旧石器時代の確認調査はしていない。写真撮影・全測図作成等記録保存を行なったうえ埋め戻し調査を終了した。



第10図 ハケ遺跡の地形と調査区（1/4,000）

第8表 ハケ遺跡調査一覧

地区 地点	所在地	調査期間 ()は試験調査	面積 (m ²)	調査原因	確認された遺構と遺物	所収報告書
A-1次	大字中相田字通見1228~2021	1975.9.11~16	306	個人住宅建設	古墳住居1,堅穴状遺構3,縄文土器	上福岡市遺跡調査報告書
C-1次	大字中相田字清見1480番地	1977.8.2~27	1794	宅地造成	縄文住居5,奈良平安住居2,堅穴状遺構、土坑、卯跡	ハケ遺跡調査会 ハケ遺跡-C 地区
B-1次	中福岡1228-40	1978.8.28~9.10	165	個人住宅建設	遺構なし、縄文中期土器片	縄文文化財の調査(1)
B-2次	中福岡1181-2	1978.9.11~25	360	貸家建設	土坑4,卯跡1,土器	縄文文化財の調査(1)
B-3次	中福岡1228-37	1979.7.20~31	166		土坑3,縄文土器	縄文文化財の調査(5)
B-5次	大字中相田字通見1228-46	1982.5.10~17	165		土器1,縄文中期土器	縄文文化財の調査(3)
C-2次	福岡3-2068の1,2	1987.4.16~5.29	1900	倉庫付住宅整備	縄文期前住居11個,奈良平安住居4,堅壁1	縄文文化財の調査(1)
C-3次	福岡2-2-1	1988.8.15~20	627	駐車場設置	縄文中期住居4,平安住居2	縄文文化財の調査(1)
C-3次	福岡3-4-2	1988.10.24~26	60	擁壁改修工事	縄文前期住居跡1	縄文文化財の調査(1)
C-4次	旧福田屋敷地内	1990.6.20~9.6 H3.1.未~誰も調査予定	500		旧福田屋敷石垣,政治住居跡,礫石・火災跡3,江戸前期~中期方形土塀12-棟,平安住居跡3-縄文中期住居跡2,縄文後期住居跡3	2年度教育要覧, 歴史資料館
C-6次	福岡3-1189,2056-2	1993.5.6~18	141.91	個人住宅建設	縄文中期土塀6	縄文文化財の調査(16)
C-4次	福岡3-2069-1の一部	1994.6.10~1.31	54	研究施設建設	縄文中期住居跡5,土塀30	縄文文化財の調査(17)
C-3次	福岡3-1184-8	2000.1.26	100	個人住宅建設	なし	縄文文化財の調査(2)
C-7次	福岡3-2	2006.7.10~22	666	宅地造成	縄文-奈良平安遺構検出	由5号路跡3

第9表 ハケ遺跡縄文時代住居跡一覧表

(単位:cm)

住居 番号	調査年度	調査名	調査率 ()は推定	平面形 (円形)	規模 地床×柱径	印 地床 柱跡 石回	埋 床 周溝	主 方 位	時期	備考	文献
1	1977	C地区1号住	1/4	(円形)	600×	○			加曾利EⅢ		ハケ遺跡-C 地区
2	*	C地区4号住	完掘	梢円形 (方型)	(600) 400×500	○			加曾利EⅠ		*
3	*	C地区5号住	完掘			○			諸説		*
4	*	C地区6号住	(完掘)			○			加曾利EⅣ	7住と重複	*
5	*	C地区7号住				○ ○			加曾利EⅣ		*
6	1987	C地区2-1号住	1/3			○			加曾利EⅣ		縄文文化財の調査(3)
7	*	C地区2-2号住	西1/2	隅丸台形		○ ○	○		加曾利EⅠ	連弧土器出土	*
8	*	C地区2-3号住	完掘	梢円形	720×600	(○)	○		加曾利EⅢ	連弧文、資料系多い	*
9	*	C地区2-4号住	北1/2			○			加曾利EⅢ		*
10	*	C地区2-5号住	141.91	円形	620	○			加曾利EⅢ		*
11	*	C地区2-7号住	完掘	円形	700	○			加曾利EⅢ		*
12	*	C地区2-8号住	完掘	円形		○			加曾利EⅢ	2軒の住居の重複	*
13	*	C地区2-9号住	完掘	方型	720×	○	○		加曾利EⅢ	10住と重複	*
14	*	C地区2-10号住	完掘	円形	450×400	○			加曾利EⅢ		*
15	*	C地区2-14号住	完掘	円形	660×640	○	○ ○		加曾利EⅢ	3底建替え	*
16	*	C地区2-16号住	完掘	隅丸台形	670×650	○	○ ○		加曾利EⅢ		*
17	1988	C地区3-18号住	完掘	円形	650	○	○	○	加曾利EⅢ	17住と重複	*
18	*	C地区3-19号住	西2/3	円形	800×500	○	○		加曾利EⅢ	2軒の住居の重複	*
19	*	C地区3-21号住	完掘	円形	460~480	○			加曾利EⅢ	滑石製軸飾品	*
20	*	C地区3-22号住	西4-5	不整円形	700				加曾利EⅢ		*
21	1990	C地区4-22号住	1/4 (方型)						安行I	床面から土器	市史資料編
22	*	C地区4-24号住	西傾未満含	梢円形							*
23	*	C地区4-25号住	南東隅1/4 (円形)		500				加曾利EⅢ		*
24	*	C地区4-26号住	北東隅1/4 (梢円形)		600				加曾利EⅢ	蓄古	*
25	*	C地区4-28号住	土器片が多量に出土したため住居とした						加曾利EⅢ		*
26	*	C地区4-29号住							加曾利EⅢ	蓄古	*
27	*	C地区4-30号住	土器片が多量に出土したため住居とした						加曾利EⅢ	桶名寺・堀之内	*
28	*	C地区4-31号住	土器片が多量に出土したため住居とした						加曾利EⅢ	輪之内	*
29	*	C地区4-34号住	一部 (円形)		560	○			加曾利EⅢ		*
30	*	C地区4-35号住	一部 (円形) (8m×7m)			○			加曾利EⅢ		*

第10表 ハケ遺跡古代住居跡一覧表

(単位:cm)

住居 番号	調査年 度	調査名	調査率 ()は推定	平面形 (長方形)	規模 地床×設置場	周溝	主牆 方位	時期	備考	文献
1	1978	A地区1N1号	1/2	隅丸台形	440×	K 北	○		鬼高	上福岡市遺跡調査報告書
2	*	C地区3号住	完掘	長方形	470×480	K 北	○			*
3	*	C地区8号住	完掘	長方形	560×388×44	K 北	○	SC 4回半期		*
4	*	C地区2-3号6号住	完掘	方型	300×280	K 北	○	SC 4回半期		*
5	*	C地区2-10号住	完掘	長方形	450×300	K 北	○	SC 末		*
6	*	C地区2-12号住	完掘	長方形	400×340	K 南東	○	SC 桃子		*
7	*	C地区2-15号住	漸丸1/4			○		SC 桃子		*
8	*	2次掘立柱柱跡	断行開闢×逆開闢2間		870×470			鬼高	SC 中期	*
9	1988	C地区3-17号住	完掘	長方形	350×290	K 北東	○	10C 初頭	縄文文化財の調査日記史資料編	
10	*	C地区3-20号住	南東1/6					SC 3回半期		*
11	1990	C地区3-22号住	完掘	方型	400×380	北東	○	10C 初頭		*
12	*	C地区3-25号住	カドの跡が確認されたため住居とした					10C 初頭		*
13	*	C地区4-33号住	ほぼ全掘	方型	320×340	○		SC 3回半期	カタイ貝具出土	*

(2) 遺構と遺物

検出した住居は仮番号を付し報告する。

【C区7次1号住居跡】

1トレンチで確認した。北側に竈がある。南北方向に約3.5m検出。

【C区7次2号住居跡】

2トレンチで確認した。東側に竈がある。南北方向に約3m検出。

【C区7次3号住居跡】

4トレンチで住居跡北東部の隅を確認した。

【C区7次4号住居跡】

4トレンチで円形住居跡の隅を確認した。縄文時代

【C区7次5号住居跡】

3トレンチで円形住居跡の一部を確認した。縄文時代

【C区7次6号住居跡】

4トレンチで確認した。北側に竈がある。

【溝】

溝1と溝2は調査区南側に東西方向に平行して検出。溝3は2トレンチで南西方向に検出。溝4は3トレンチで南北方向に検出した。

そのほか4トレンチで土坑を4基検出した。

【C区7次1号住居跡】

1号住から須恵器大甕の胴下部片と土師器胴部細片が出土したが割愛した。甕の胎土には白色針状物質を含む。古代の住居であるが細分は困難。

【C区7次2号住居跡】

1は須恵器壺の口縁部細片で復原口径12cm、焼成はやや甘い器形と口縁の特徴から9世紀のもの。

【C区7次3号住居出土土器】

1は隆底壺部に幅広押引文（キャタピラ文）を入れ地文縄文の区画線には山形沈線を入れる。勝坂II式。2は地文条線の胴片。3は無文浅鉢片だが一部に側面調整のある土製円板。2と3は縄文中期後半。4は土師器甕の口縁部細片で平安時代のもの。1~3は覆土流入品である。

【C区7次4号住居出土土器】

1は押引で沈線列をつくるが胎土に雲母を多く含み阿玉台I式。2は幅広押引文と三角押文のセット。勝坂II式。3は波状口縁深鉢で、地文縄文であり、沈線により花弁状区画文を磨消す。加曾利EIV式である。

【C区7次5号住居出土土器】

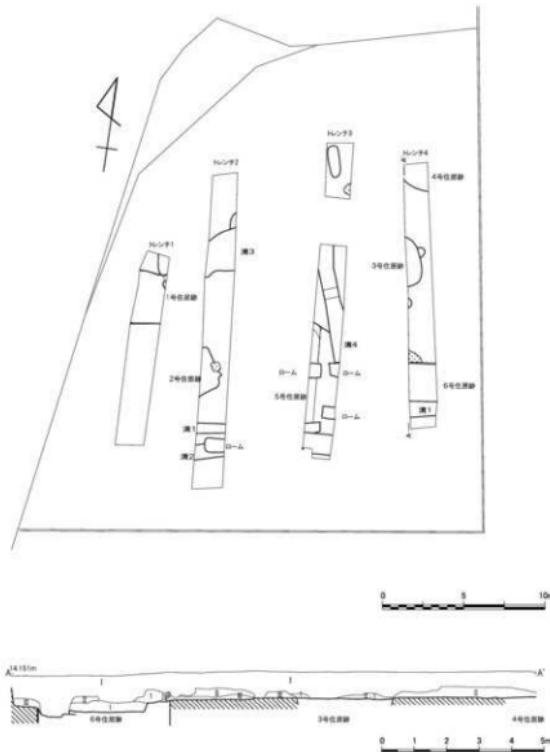
1と2は胎土に金雲母を含みヒダ状指頭圧痕をもち、2はゆるい波状文をもつ。1は阿玉台I b式新、2は阿玉台II式、3は複列の押引文をもつ勝坂I式。4~7はキャタピラ文又は三角押文をもつ勝坂II式。8は全面縄文、9は条間の広い縄文の胴部片。10は地文燃糸の区画文口縁部。11は文様帶部分。12は頸部無文帶部分。13と14は貼付隆帯で垂下文をもつ。10~14は加曾利E I式新。15と16は地文縄文で沈線による懸垂文をもつ加曾利E I式新相。17~20は地文縄文で21は弧状磨消をもつ。22と23は地文条線で23は連弧文。17~23は加曾利E II式とE III式。26は表に条線、口縁裏に複式の沈線のある加曾利B式。住居の時期は不明。

【C区7次6号住居出土土器】

1は地文縄文の上に半截竹管文を施した諸磠式。2は押引文を多用し胎土に金雲母を含む。3は地文縄文で太い隆帯上に円形刺突文を密に施文するが時期不明。4は地文縄文に幅広磨消文をもつ。5は4と同巧の底部。6は須恵器壺で淡灰色を呈し、復原口径12cm。口唇直下の内外にゆるい段がある。9世紀代のもの。

【C区7次造構外出土遺物】

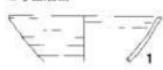
1は胎土に纖維を含む沈線文土器で早期中葉。2は羽状縄文で胎土に纖維を含む前期前半。3は地文条線で斜位の刻みを加えた隆帯をもつ諸磠b式。4は地文条線で刺突浮線をもつ諸磠c式。5は口縁下に押引文列をもつ勝坂I式。6は連続矢状押文列をもち、7と8は胎土に金雲母を含み押引波状文を入れる阿玉台II式。9~12は幅広押引文と三角押文をセットとする勝坂II式。10は区画隆帯の壠と区画内にかかる押引文を多用する。13は全面縄文、14は波状口縁深鉢で円形刺突文をめぐらす。15は突引文・沈線文をもつ勝坂III併行期のもの。16は沈線を地文とし、半截竹管による隆帯で区画した口縁部片で、加曾利E I式新。17は地文縄文で沈線の懸垂文をもつ。18は頸部無文帶をもち沈線の懸垂文をもつ加曾利E I式新相のもの。19と20は地文縄文で弧状磨消をもつ加曾利E III式のもの。縄文時代の数時期の細片を割愛した。21はホルンフェルス製の打製石斧、22は頁岩製の打製石斧で刃部を欠く。



1ハシチ
1. 黒褐色土 粘り有、練り良、素土新作土、コンクリート等の基礎跡はこの層中に有。
2. 黑褐色土 粘り有、練りや柔、素土ベースに10cm以下し状黒褐色土をまざら伏に含む。遺構はこの層の下に有。
3. 黑褐色土 粘り有、練りや柔、3cm以下ローム少し含むが、ほぼ地山ソフローム。遺構確認面。
1. 黑褐色土 粘り有、練り強、1cm以下ローム及び素土粒多量に含む、東側で2cm以下シルト少量。
2. 黑褐色土 粘り有、練り強、1層に混ぼ同じだがや色調明るく、シミ状にシルト少量。
3. オリーブ褐色土 シルト質の粘土(カヤンジカ?)
4. 黑褐色土 粘り有、練り強、2mm以下ローム、燒土粒多量。

第11図 ハケ遺跡C区7次調査区域図(1/300) 土層図(1/150)

2号住居跡



3号住居跡



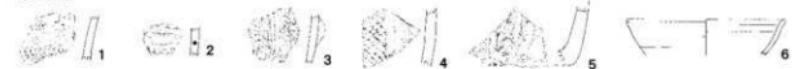
4号住居跡



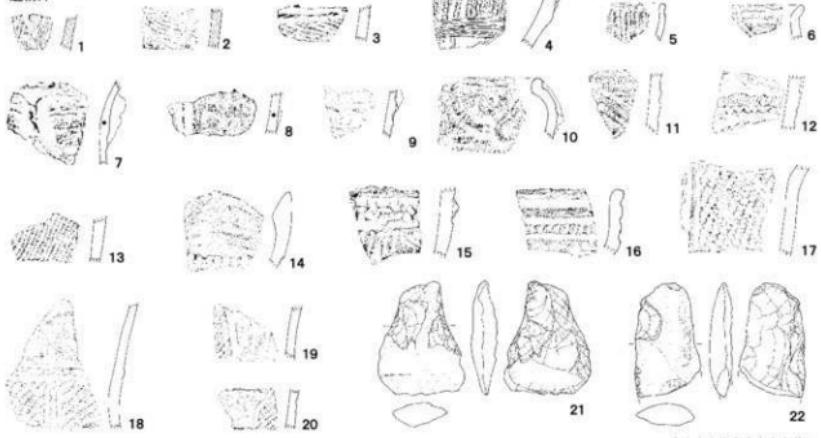
5号住居跡



6号住居跡



遺構外



第12図 ハケ遺跡 C 区 7 次 2 ~ 6 号住居跡・遺構外出土遺物 (1 / 4)

0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 cm

第6章 滝遺跡の調査

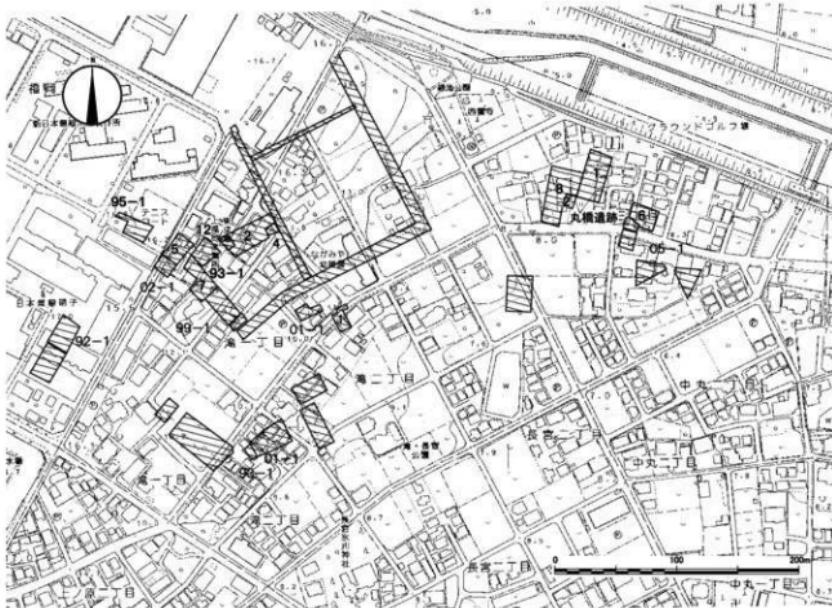
I 遺跡の立地と環境

滝遺跡は、武蔵野台地の北東端、荒川低地に舌状に突き出た武蔵野段丘面の台地東側をおりた一段低い立川段丘面の縁に立地している。「滝」の地名は、近年までこの段丘上から滝が落ちていたことに由来する。北西側は段丘面、北東側は新河岸川を挟んで荒川低地の沖積地と接し、南側は排水溝として利用される緩やかな小支谷を流れる旧清水に挟まれ、標高9~12m前後の微高地を形成する。遺跡の範囲は南北250m、東西500m以上ある。宅地開発されるが部分的に畠が残っている。

周辺の遺跡は、北西側の段丘上に縄文時代前期、中期、晩期、古墳時代の遺跡である著名な上福岡貝塚遺

跡と権現山遺跡群が新河岸川沿いに並び、旧清水を挟んだ南側には、縄文、飛鳥時代、中世の長宮遺跡が広がる。

1976年以降宅地開発等に伴う緊急調査が増加し、遺跡の谷口に当たる旧丸橋遺跡（1981年の変更増補で滝遺跡と合併）で古墳時代前期と後期の住居跡を検出以来19ヶ所で調査が行われている。主たる時代と遺構は縄文時代早期・前期の土坑、古墳時代から奈良・平安時代の住居跡、近世段状遺構である。なお、本遺跡の第3・5・9~11次調査は権現山遺跡の範囲に入っているため、今後本遺跡では欠番とし、権現山遺跡1・2・5~7地点とする。



II 滝遺跡第12地点

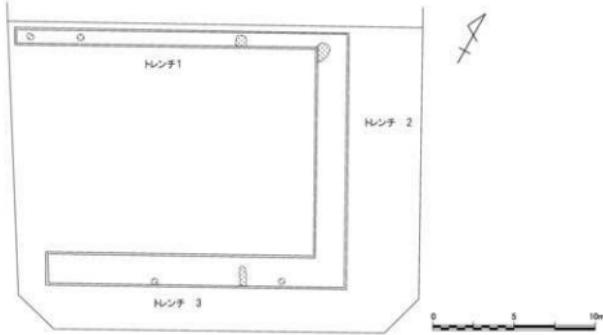
(1) 調査の概要

調査は再開発に伴うもので、原因者より2007年1月19日付けで「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡北端の台地上に立地し、南側と東側の隣接地で住居跡を検出しているため、申請者と協議の結果、遺構の存在を確認するため試掘調査を実施した。

試掘調査は2007年2月6日に行った。幅約2mのトレンチ3本を設定し、重機で表土除去後、人力による表面精査を行なった。調査の結果、しみ状の暗褐色土プランを数ヶ所検出したが、確認したところ自然の堆みであった。確認面まで45cmを測る。なお、旧石器時代の確認調査はしていない。遺構・遺物の検出がなかったため写真撮影・全測図作成等記録保存を行なったうえ埋め戻し調査を終了した。

第11表 滝遺跡調査一覧表

地点	所在地	調査期間 ()は試掘調査	面積 (m ²)	調査原因	確認された遺構と遺物	所収 報告書	備考
1次	滝2-6-11	1978.10.2~13	129	住居跡1,土師器		埋蔵文化財の調査(1)	
2次	滝1-4-2	1979.4.15~5.7	278	幼稚園のブーム建設	住居跡5,周溝,土坑,長甕,土器	埋蔵文化財の調査(2)	
3次	滝1-4-15	1980.6.27~7.3	76		様現山遺跡1地点に変更,欠番とする。	埋蔵文化財の調査(3)	様現山遺跡へ変更
4次	滝1-4-15	1980.7.7~12	105		遺構なし,平安土師器片	埋蔵文化財の調査(4)	
5次	滝1-3-21	1980.7.20~31	330		様現山遺跡2地点に変更,欠番とする。	埋蔵文化財の調査(5)	
6次	滝3-3-6	1980.11.20~12.2	166		縄文土坑,台良住居跡2,縄文早期土器,石器,余良土器他	埋蔵文化財の調査(6)	
7次	滝1-1-19	1981.7.30~31	400	個人住宅建設	遺構なし,縄文土器片	埋蔵文化財の調査(7)	
8次	滝3丁目3-15他	1983.11.14~26	990	住宅建設	古墳住居2	埋蔵文化財の調査(8)	
9次	滝1-4-4	1984.5.11~22	466	住宅建設	様現山遺跡5地点に変更,欠番とする。	埋蔵文化財の調査(9)	様現山遺跡へ変更
10次	滝1-3-17	1984.6.1~12	363	住宅建設	様現山遺跡6地点に変更,欠番とする。	埋蔵文化財の調査(10)	様現山遺跡へ変更
11次	滝1-4-2	1984.6.28~30	33.12	物置建設	様現山遺跡7地点に変更,欠番とする。	埋蔵文化財の調査(11)	
12次	滝1-4-2	1984.12.22~24	94	住宅建設	なし	埋蔵文化財の調査(12)	
1992年度 計画(1)	滝1-2-14の一部	1992.7.6~8	400	倉庫建設	なし	埋蔵文化財の調査(13)	
1993年度 計画(1)	滝1-1-4	1993.4.23~28	313.08	共同住宅建設	なし	埋蔵文化財の調査(14)	
1993年度 計画(2)	滝2-2-7	1993.8.25	99	個人住宅建設	なし	埋蔵文化財の調査(15)	
1995年度 計画(1)	滝1-3-13	1995.11.27~30	462	共同住宅建設	様現山遺跡14地点に変更,欠番とする。	埋蔵文化財の調査(16)	
1999年度 計画(1)	滝1-1-6	1999.10.21~26	511.09	宅地或(土地分譲)	なし	埋蔵文化財の調査(17)	
2000年度 計画(2)	滝2-5-20	2001.1.23~24	154.7	個人住宅建設	なし	埋蔵文化財の調査(18)	
2001年度 計画(1)	滝2-2-8	2001.4.17~20	519.64	共同住宅建設	余良初頭住居跡1	埋蔵文化財の調査(19)	
2002年度 計画(2)	滝1-3-49	2002.5.29~30	165	個人住宅建設	様現山遺跡17地点に変更,欠番とする。	埋蔵文化財の調査(20)	
2005年度 計画(1)	滝3-5-3-143	2005.6.24~27	350	個人住宅建設	なし	市内遺跡群1	
雨ぬき合	滝1-4-1,26,27	2006.4.15	2492	幼稚園	なし		
12	滝2-5-3の一部,5,4の一部	2007.2.6	472	個人住宅建設	なし	市内遺跡群3	
13	滝2丁目2~6	2007.10.24~11.1		共同住宅建設			
14	滝2丁目5番11,17	2007.11.8~19	692	専用住宅4棟建設			



第14図 滝遺跡第12地点調査区域図 (1 / 300)

第7章 長宮遺跡の調査

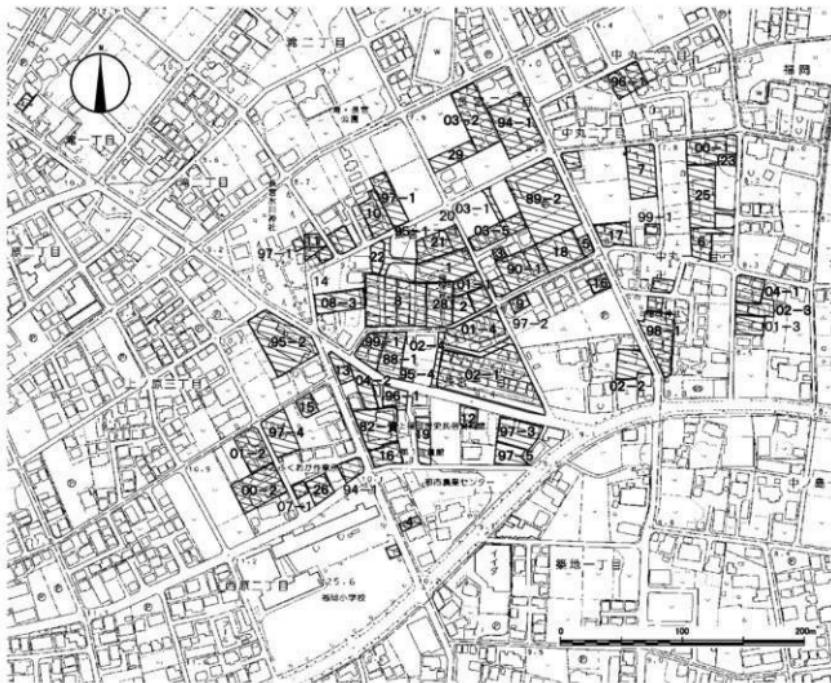
I 遺跡の立地と環境

長宮遺跡は、武藏野台地の北東端、荒川低地に舌状に突き出た武藏野段丘面の台地東側をおりた一段低い立川段丘面に立地している。この低位の段丘面には「熊の山」と呼ばれた山林を湧水源とする清水が流れ（現在は排水溝として利用）、幅100mほどの緩い小谷を形成し、清水の北側に滝遺跡、南側に長宮遺跡が分布する。北東側は荒川低地の沖積地と接し、500m南側には福岡江川が流れ、標高9～10m前後の微高地を形成する。遺跡の範囲は南北300m、東西500m以上ある。宅地開発されるが部分的に畠が残っている。

遺跡の西には長宮氷川神社があり、この神社の縁起

伝承には「長宮千軒町」として繁盛したが戦国期に墳滅した旨が記されている。周辺の遺跡は、北側に绳文時代早前期、古墳時代前後から奈良・平安時代の遺跡である滝遺跡、南側には、飛鳥・奈良・平安時代、中近世の松山遺跡が接する。

1977年の保育園建設に伴う緊急調査で中世の屋敷地と思われる造構群を検出したのをはじめ、宅地造成などにより52ヶ所で調査が行われている。主たる時代と造構は绳文時代早期後葉から前期・中期・後期前葉までの集落跡、南側の松山遺跡寄りに飛鳥時代の住居跡、中世末近世初頭の屋敷跡や長宮氷川神社参道に関係のある溝跡などである。



II 長宮遺跡第25地点

（1）調査の概要

調査は個人住宅建設に伴うもので、原因者より2007年1月24日付けで「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡北東に立地し、西側の隣接地で縄文時代の遺物を検出しているため、申請者と協議の結果、遺構の存在を確認するために試掘調査を実施した。

第12表 長宮遺跡調査一覽表

施 設 名	所在地	調査面積 〔ヘクタール〕	面積 〔m ² 〕	調査原因	確認された 遺構と遺物	所収報告書 番号	地 点 所 在 地				調査面積 〔ヘクタール〕	面積 〔m ² 〕	調査原因	確認された 遺構と遺物	所収報告書 番号
							地 点 名	所在 地	面積 〔m ² 〕	調査原因					
長 宮 1-2-1-23	1997.10.3 ~30	1000	保育園 建設	川端通道(第3 段)・長井直道	3段,土塁&柱,柱 根,瓦,土器,石器,板 瓦,石古,陶器,馬の骨	理(1)	長 宮 1-3-3	1995.12.12 ~25	120	駐車場 建設	なし	理(18)			
長 宮 1-2-1-27	1998.4.25 ~5.15	225	民泊施 設	土器,土器,石器,板 瓦,石古,陶器,馬の骨	理(1)	長 宮 1-2-6	1996.7.12 ~17	368	宅地造成	なし	理(19)				
長 宮 2-5-11	1998.7.24 ~30	111	民泊施 設	土器	理(1)	長 宮 2-2-9 2-3-3	1996.11.7	568	宅地造成	なし	理(19)				
長 宮 1-1-14	1998.10.6 ~9	37	住居跡,土 器,陶器, 磁器,漆器	住居跡,土器,陶器, 磁器,漆器	理(1)	長 宮 1-2-4	1997.1.14 ~21	794	共同住 宅建設	古墳・奈良住居1	理(19)				
長 宮 2-5-2	1999.4.16 ~20	110	調 査 文 化 資 料	調査文書,土器片	理(II)(習)	長 宮 2-2-4	1997.2.24	204	社 務 所 改 建	なし	8年教				
中 丸 1-4-3	1998.4.21 ~30	515	造 築 施 設	造築なし,中世 以降の器片	理(Ⅲ)	長 宮 2-3-3	1997.4.8 ~9	611	地 震 発 生 地 域	講(1时期不明)	理(20)				
中 丸 1-3-6	1998.5.13 ~31	869	施 設	井戸,井戸,土 器,中世以降陶器片	理(Ⅲ)	長 宮 2-1-2	1997.4.9 ~11	289	個 人 住 宅 建 設	土塁1(时期不明)	理(20)				
長 宮 2-1-10	1998.9.8 ~13	1900	地 震 造 成	中世遺,井戸,土 器,陶器,石古,馬鹿 骨	調査1集	長 宮 2-1-26,37	1997.6.4 ~5	423	駐 車 場 建 設	講(1时期不明)	理(20)				
造 築 施 設	1998.9.21 ~30	200	陶器なし,中世 以 降 陶器片	理(Ⅲ)	西 原 2-5-6	1997.8.15	753	駐 車 場 建 設	中世堅穴状遺構1	理(20)					
長 宮 2-3-4	1998.12.5 ~15	485	施 設	土器,瓦,残土塁部 落,瓦,土器,防除草 薬,土器	理(Ⅲ)	中 丸 1-2-4	1998.11.24 ~27	1014	宅地造成	なし	理(21)				
長 宮 2-2-10	1999.12.16 ~22	117	施 設	調査文書,土器片, 中世以降陶器片	理(Ⅲ)	中 丸 1-3-3	1999.11.8 ~16	98	個 人 住 宅 建 設	講(1时期不明),調 査文書類G2	理(22)				
長 宮 1-2-7	1981.5.26 ~30	160	個 人 住 宅 建 設	土器,中世陶器片, 绳文土器片	理(Ⅳ)	西 原 2-4-8,10	2000.7.17 ~28	952	地 震 害 地 域 (土分地盤)	調査文書類(山崩 地,堅穴住居5,土崎13	理(23)				
長 宮 1-2-13	1981.6.3 ~11	251	個 人 住 宅 建 設	造築なし,中世陶 器片	理(Ⅴ)	長 宮 2-1-7	2000.8.21	1081	宅地造成 (土分地盤)	なし	理(23)				
長 宮 1-2-12	1990.10.0	1000	歴史民 俗博物館 建設	講2	57年教	長 宮 1-3-3A,4A	2001.1.17	1118	共 同 住 宅 (土分地盤)	堅穴13,坂上1	理(23)				
長 宮 2-2-1	1985.9.24 ~27	156	個 人 住 宅 建 設	土器	理(Ⅵ)	中 丸 1-4-7	2001.7.18	375	個 人 住 宅 建 設	土城61(文早削成層), 岡田明治,丘陵14	理(24)				
西 原 2-5-8	1985.10.22 ~31	116	個 人 住 宅 建 設	なし	理(Ⅵ)	長 宮 2-1-3	2001.4.20 ~24	330	個 人 住 宅 建 設	なし	理(24)				
長 宮 1-2-11	1986.3.6 ~15	400	室 曾 保 育 施 設	書2	60年教	西 原 2-4-7	2001.5.25	634	共 同 住 宅 建 設	なし	理(24)				
長 宮 1-4-7	1986.6.9 ~17	173	個 人 住 宅 建 設	绳文土器片	理(Ⅵ)	中 丸 1-1-3	2001.8.7 ~24	513	共 同 住 宅 建 設	道路状,遺構1,樅木 原(堅穴原上)	理(24)				
中 丸 3-11	1987.6.19 ~30	504	個 人 住 宅 建 設	土器,文前期土器部 数	理(Ⅹ)	長 宮 2-8-6	2001.11.6	130	個 人 住 宅 建 設	なし	13年教				
長 宮 3-8	1988.9.13 ~16	657	住 宅 建 設	なし	理(11)	長 宮 1-3-2	2002.6.5 ~11	3536	宅地造成 (土分地盤) 【堅穴12】	堅穴12(文早削成層), 岡田明治,丘陵14	理(25)				
長 宮 3-9	1989.2.20 ~30	448	住 宅 建 設	なし	理(12)	長 宮 1-4-3	2002.6.20 ~7.2	575	遺構の 発見調査	堅穴12(文早削成層), 岡田明治,丘陵14	理(25)				
長 宮 2-5-19	1989.11.14 ~21	1778	住 宅 建 設	なし	理(12)	中 丸 1-1-5	2002.9.3 ~11	622	宅地造成 (土分地盤)	道路状,遺構1,樅木 原(堅穴原上)	理(25)				
長 宮 2-5-4	1990.11.27	919	共 同 住 宅 建 設	なし	理(13)	長 宮 1-3-31	2002.9.20 ~25	362	地区 開 発	講1	理(25)				
長 宮 5-3	1992.10.6 ~12	925	同 上 施 設	岡田文前居1,中庭 土塁2,講路5	理(15)	長 宮 1-4-5	2003.1.30 ~2.14	72	個 人 住 宅 建 設	堅穴12(文早削成層), 岡田明治,丘陵14	14年教				
長 宮 1-2-21,35	1993.12.17 ~1.22	467	同 上 施 設	古伊木末期居1	理(15)	長 宮 2-5-6	2003.3.10 ~12	827	宅地造成	堅穴12(文早削成層), 岡田明治,丘陵14	14年教				
長 宮 2-4-2-2	1994.2.20 ~28	180,50	同 上 施 設	講2,土塁1,中庭 土塁2,板塀1	5年教	長 宮 2-4-7	2003.12.16 ~18	1123	宅地造成	井戸跡1	理(26)				
西 原 2-5-1	1994.7.25 ~8.2	314	同 上 施 設	断面面形圖1 +7段の土塁	理(17)	中 丸 1-1-1	2004.1.16 ~28	488	宅地造成	なし	理(27)				
北 部 1-2-22	1995.4.10 ~5.9	189,50	個 人 住 宅 建 設	中庭講2	理(18)	長 宮 1-2-15	2004.12.7 ~9	466	農地改良	なし	理(27)				
長 宮 2-1-63	1995.6.19 ~8.8	360,94	個 人 住 宅 建 設	中庭講1,井戸17	理(18)	中 丸 1-4-5	2005.2.15 ~15	1161	個 人 住 宅 建 設	調査文書検出	市内3				
長 宮 2-1-20 外 部	1995.8.9 ~28	421	高 度 設 計	なし	中 丸 2-1-5	2005.3.28	594	個 人 住 宅 建 設	なし	市内3					
長 宮 上 ノ 事 業 1-3-6	1995.10.4 ~12	1528	同 上 施 設	講1	長 宮 1-11	2005.5.30	174	個 人 住 宅 建 設	なし	理(27)					
長 宮 2-1-60	1995.10.23 ~25	269	駐 車 場 施 設	中庭講1,井戸14	理(18)	長 宮 2-1-11	2005.10.15	19,58	調査文 書検出	保護契約立合	理(27)				
長 宮 2-1-60	1995.10.27 ~11.9	269	駐 車 場 施 設	中庭講1,井戸14,井 戸,講2,井戸,むらわ い	調査6集	長 宮 2-1-6	2005.11.20	618	2階建 集合住宅	なし	理(27)				

試掘調査は2007年2月15日から同16日に行った。2×2 mのグリッドを5ヶ所設定し、人力で表土除去し表面精査を行なった結果、暗褐色土プランを数ヶ所検出したためさらに掘り下げたところ、時期不明のピットであった。確認面まで70~80cmを測る。旧石器時代の確認調査は行っていない。検出遺構を調査し写真撮影、遺構測量等記録保存を行なったうえ埋め戻し、調査を終了した。



第16図 長宮遺跡第25地点調査区域図 (1/300) ピット (1/60)

(2) 遺構と遺物

【ピット】遺構に伴う出土遺物はない。

第13表 長宮遺跡第25地点ピット一覧表 (単位:cm)

No	平面形態	確認面	底面	深さ	備考
1	円形	32×28	16×14	15	
2	円形	32×30	6×5	37	
3	円形	34×30	25×20	33	

【出土遺物】(第18図上) グリッド4の表土から縄文土器、グリッド3の表土から近世遺物を検出した。

1~14のすべてが胎土に纖維を含む。1~4は表裏共に貝殻条痕文、5~11は擦痕文をもつが植物纖維押圧文で、12と13は磨滅著しいが素面の縄文を地文とする。14は丸底の破片である。縄文早期後半から縄文前期前半で、細片のため割愛した18片もこの類。

15~21は近世遺物。22はチャート製ドリル。(第14表)

Ⅲ 長宮遺跡第26地点

(1) 調査の概要

調査は個人住宅建設に伴うもので、原因者より2007

年2月26日付けで「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡南西に立地し、北側の隣接地で平安から中世の堅穴状遺構を検出している。申請者と協議の結果、遺構の存在を確認するために試掘調査を実施した。

試掘調査は2007年3月28日に行った。2×2mのグリッドを6カ所設定し、人力で表土除去し表面精査を行なった結果、しみ状の暗褐色土プランを数ヶ所検出したが、確認したところ自然の窪みであった。確認面まで40cmを測る。旧石器時代の確認調査は行っていない。検出遺構を調査し写真撮影・遺構測量等記録保存を行なったうえ埋め戻し、調査を終了した。

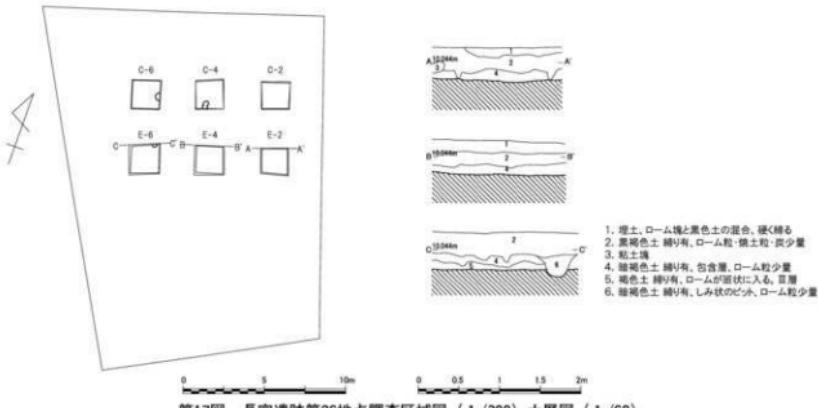
【出土遺物】(第18図下) 表土から縄文土器を検出した。

1~3の胎土には大量の植物纖維を含む。1は沈線と刺突をもつ。2の一部に条痕文の痕跡がある。3は剥離が著しい。1~3は縄文早期後半のもの。4は硬質で青海状の同心円文があるが、時期は全く不明。

第14表 長宮遺跡第25地点出土遺物観察表

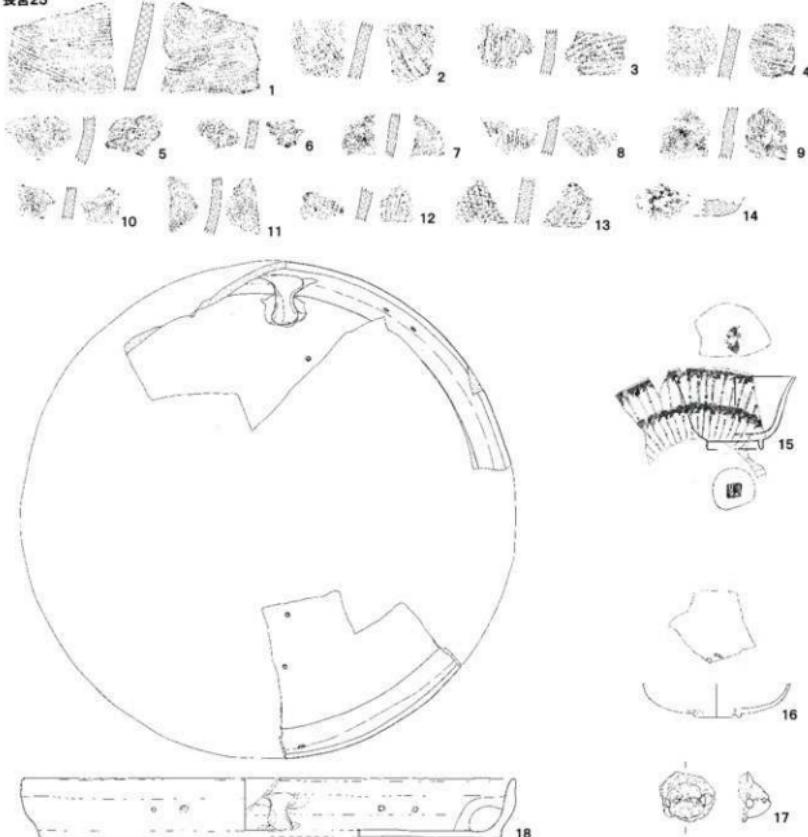
(単位:cm)

No	種別・器種	口径・長	底径・幅	高さ・厚	技法・文様/その他	推定生産地	推定年代	残存・備考
15	磁器・碗・端反転	(10.0)	(4.6)	6.0	ロクロ成形・染付。外面筆文、底裏黒有り。内面見込みに鳥。	瀬戸・美濃	1810~1820年代	1/2以上残存
16	陶器・碗・薄茶碗	(12.0)	(4.0)	4.1	ロクロ成形・灰釉。見込みに只須と鉢筋で梅文。	瀬戸・美濃	1740~1800年代	1/4以下残存
17	土器・火鉢				火鉢の把手。獅子頭。横に耳用の穿孔がある。	在地		把手破片
18	土器・培塿	(40.4)	(37.6)	4.9	經作り成形。外面口縁部横撫で、底裏地縦目/赤色粒。白色粘土がマーブル状に混入。補修用の穿孔5ヶ所あり。	在地	近世	1/2以下残存
19	土器・培塿	(36.0)	(33.2)	4.9	經作り成形。外面口縁部横撫で、底裏地縦目/赤色粒。白色粘土がマーブル状に混入。	在地	近世	1/4以下残存
20	石製品・砥石	9.9	2.7	2.1	表面側4面砥面。圓筒状に端部が磨り減る。裏面と側面に鋸目状タガネ有。	凝灰岩		上下裏面破損
21	石製品・砥石	6.5	4.0	0.9	表面2面砥面。	凝灰岩		上下裏面破損
22	石器・ドリル	3.9	2.7	0.8	7.3g	チャート	縄文	

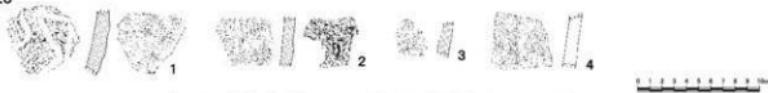


第17図 長宮遺跡第26地点調査区域図 (1/300) 土層図 (1/60)

長宮25



長宮26



第18図 長宮遺跡第25・26地点出土遺物（1/4・2/3）

第8章 亀居遺跡の調査

I 遺跡の立地と環境

亀居遺跡は、入間川の支流新河岸川に注ぐ福岡江川の谷頭部に位置している。標高25~26mで現谷底との比高差は5mを測る。本遺跡をのせる北側の台地は急傾斜をなすが、対岸の南側は緩やかな斜面を形成している。遺跡の時期は、旧石器時代及び縄文時代中期前葉で、特に後者は周辺では類例の少ない單一集落である。江川南造の立地とあわせて台地の奥に形成された中期前葉の遺跡のあり方として特異な様相が窺える。遺跡周辺は、土地区画整理事業により区画道路が縱横にとりつけられ、宅地化が進んでいる。

1977年の最初の調査から2007年3月現在まで62地点で調査され、縄文時代中期前半の住居跡16軒、屋外埋甕2基、集石土坑99基、土坑、ピット多数が確認されている。

遺物は阿玉台式、勝坂式土器が主体で一部五領ヶ台上層期の土器片も出土している。

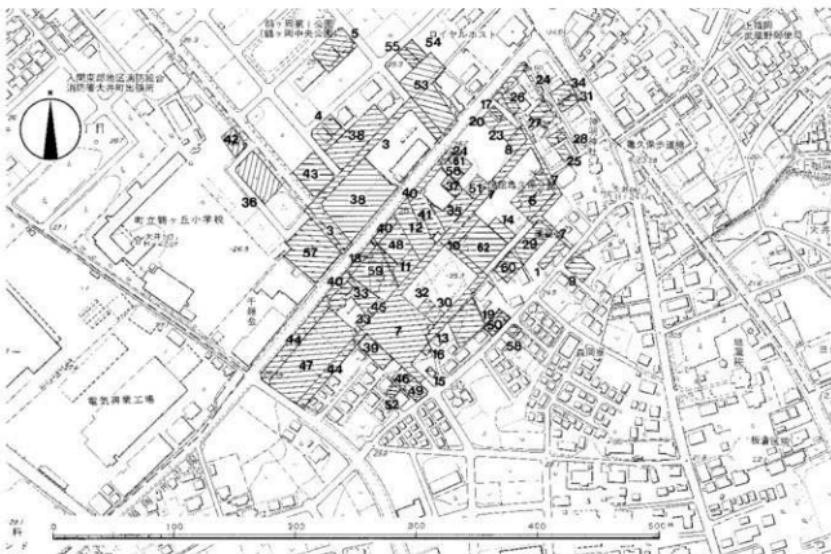
II 亀居遺跡第61地点

(1) 調査の概要

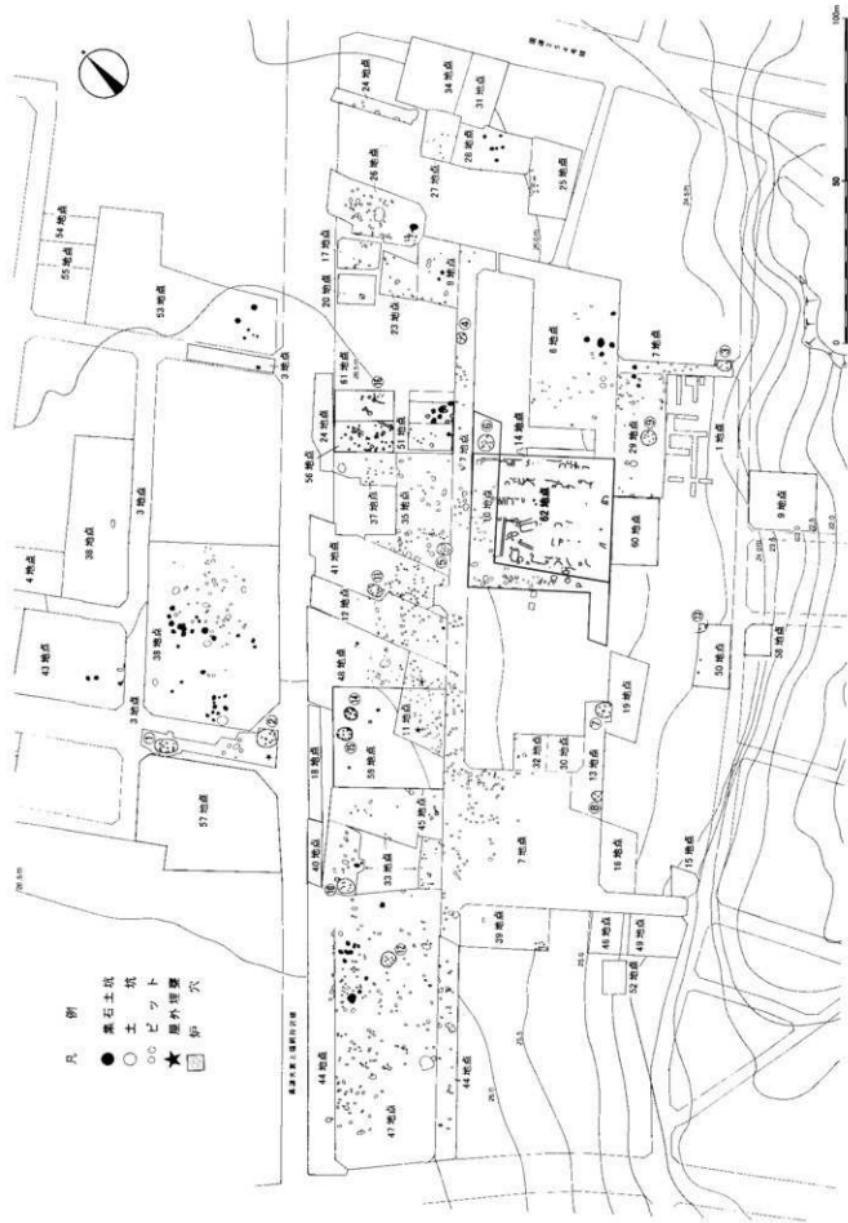
調査は個人住宅の建設に伴うもので、原因者より2006年9月8日付で「埋蔵文化財事前協議書」が市教育委員会に提出された。申請地は遺跡範囲の中央部に位置し、隣接地からは縄文時代の集石、土坑、ピット等遺構が多数検出しているため、申請者と協議の結果、遺構の存在を確認するため試掘調査を実施した。

試掘調査は2006年10月4日行った。幅約2mのトレンチ2本を設定、重機で表土除去後、人力による表面精査を行なった結果、住居跡、土坑等を確認した。確認面まで50~60cmを測るが、土壤改良のため遺構確認面まで掘削を行うことから本調査をすることとした。

本調査は2006年10月10日から同年10月13日まで行なった。住居跡、土坑の範囲を重機で表土除去後、人力による調査を行なった。調査の結果検出した遺構は縄文時代中期の住居跡1軒、集石2基、土坑1基、ピットである。写真撮影・遺構測量等記録保存を行ない、重機で埋め戻し調査を終了した。



第19図 亀居遺跡の地形と調査区（1/4,000）



第20図 亀居道路分布図 (1/1,500)

第15表 魚居遺跡調查一覽表

番	所在地	調査面積		面積 (ha)	調査期間	地種と植物		所以取扱者	地種と植物		所以取扱者
		耕作地	林野地			作物	土壠		ビット	耕作地	
1	久保田001	1972	0.05	畠地軒廊		道耕なし		久保田耕作	久保田耕作	道耕なし	久保田耕作
2	久保田006	1973	3.00	畠地軒廊		道耕なし		久保田耕作	久保田耕作	道耕なし	久保田耕作
3	鶴ヶ岡001-1	1979. 11~12	7.00	区画整理	2	1	6	1		区画整理	久保田耕作 久保田耕作
4	鶴ヶ岡2-2	(1980)試験		区画整理						道耕なし	
5	鶴ヶ岡2-3	(1980)試験		区画整理			1				
6	久保田000	1985	0.04	区画整理	7	4	30			区画整理	久保田耕作
7	久保田009	1986. 8	2.70	区画整理	2	7	84	128		区画整理	久保田耕作
8	久保田001	1986. 8	1.61	個人住宅	2	3	11			区画整理	久保田耕作
9	久保田000-1	(1986. 9.) 試験		区画整理						道耕なし	
10	久保田001-0	1986. 10	0.05	区画整理	1		20	17		区画整理	久保田耕作
11	久保田001-3	1987. 10.13 ~11.13	3.05	個人住宅	2		73			区画整理	久保田耕作
12	久保田001-1	1987. 11.16 ~12.16	3.07	個人住宅	1		48	1		区画整理	久保田耕作
13	久保田000-3	1988. 6	2.02	区画整理	2					区画整理	久保田耕作
14	久保田000-4	1988. 7.22 ~8.23	1.65	個人住宅						道耕なし	久保田耕作
15	久保田007	(1989. ?) 試験		個人住宅						道耕なし	久保田耕作
16	久保田000-5	1989. 8.2	4.05	区画整理	1					区画整理	久保田耕作
17	久保田000-3	1989. 9.14 ~9.18	1.12	個人住宅		3	8			区画整理	久保田耕作
18	道耕定期	1990. 3	2.00	区画整理						道耕なし	久保田耕作
19	鶴居007	1990. 3.12 ~3.25	0.15	個人住宅						道耕なし	久保田耕作
20	久保田000-3	1990. 5.21 ~5.25	1.18	個人住宅	1					区画整理	久保田耕作
21		未調査									
22		未調査									
23	久保田000-14~ 15	1990. 9.3 ~9.10	1.60	個人住宅		10				区画整理	久保田耕作
24	久保田000-5	1990. 12	1.204	区画整理	1	3				区画整理	久保田耕作
25	久保田000-7	1991. 3.12 ~3.16	0.15	個人住宅						道耕なし	久保田耕作
26	久保田000-14	1991. 2.14 ~3.15	0.25	個人住宅	2	60				久保田耕作	久保田耕作
27	久保田000-2	1991. 5	0.29	個人住宅		5				久保田耕作	久保田耕作
28	久保田000-6	1991. 1.24 ~2.15	4.05	個人住宅	6					久保田耕作	久保田耕作
29	久保田000-2	1991. 7	0.05	集合住宅	1	2	36			区画整理	久保田耕作
30	久保田000-3~5	1991. 7	1.16	個人住宅						道耕なし	久保田耕作
31	久保田002-12	試験調査		調査未開							所以報告書
32	久保田002-5	1991. 9	1.05	個人住宅						道耕なし	久保田耕作
33	久保田000-8	1991. 12.3	2.00	個人住宅						6	久保田耕作
34	久保田001-1	1991. 12.6	0.99	個人住宅	1	3				久保田耕作	久保田耕作
35	久保田002-2	1992. 1.13	0.18	個人住宅						久保田耕作	久保田耕作
36	久保田002-7	1992. 3.28	1.15	個人住宅	1	2	7	96		久保田耕作	久保田耕作
37	鶴ヶ岡1-2	1992. 3.17 ~3.18	0.76	瓦葺所建設						7.0	鶴ヶ岡1-2
38	久保田000-2~6	1992. 4.28	0.06	瓦葺所建設						13	久保田耕作
39	鶴ヶ岡1-2~1	1992. 4.30	3.10	瓦葺所建設						29	鶴ヶ岡1-2~1
40	久保田000-6	1992. 5.26	0.34	瓦葺所造成						4	久保田000-6
41	久保田002-5	1992. 5	0.00	瓦葺所造成						1	久保田002-5
42	久保田000-23	1993. 5.31	0.63	瓦葺所造成						66	久保田合衆会 久保田耕作
43	久保田000-23~25	1993. 5.31	0.63	瓦葺所造成						1	久保田合衆会 久保田耕作
44	鶴ヶ岡1-3~4	1993. 5.11 ~7.16	1.16	瓦葺所建設						21	鶴ヶ岡1-3~4
45	鶴ヶ岡2-1	1993. 5~8.30	0.38	瓦葺所造成						4	鶴ヶ岡2-1
46	久保田003-1	1993. 10.22	4.10	瓦葺所造成						29	久保田合衆会 久保田耕作
47	鶴ヶ岡1-1000~ 1-1012~5	1993. 6.15 ~8.14	0.09	瓦葺所造成						5	鶴ヶ岡1-1000~ 1-1012~5
48	久保田000-17	1993. 6~10.20	0.15	瓦葺所造成						1	久保田耕作
49	久保田000-17	1993. 6~10.20	0.15	瓦葺所造成						1	久保田耕作
50	久保田000-3	1993. 8.11 ~8.20	0.17	瓦葺所造成						174	鶴ヶ岡1-2
51	久保田000-19	1993. 1.20~ 11.20	0.20	瓦葺所造成						1	久保田耕作
52	久保田003-7~14	1993. 11.16~ 11.20	0.14	瓦葺所造成						1	久保田耕作
53	久保田003-7~14	1993. 11.16~ 11.20	0.14	瓦葺所造成						1	久保田耕作
54	久保田000-7~14	1993. 6~20	0.18	瓦葺所造成						1	久保田耕作
55	久保田000-7~14	1993. 6~20	0.18	瓦葺所造成						1	久保田耕作
56	久保田000-28~14	1993. 6~20	0.22	個人住宅						11	久保田耕作
57	久保田000-14~14	1993. 6~20	0.22	個人住宅						11	久保田耕作
58	鶴ヶ岡2-28~1	1990. 10.30~ 2000. 1.28	0.12	瓦葺						7	久保田耕作
59	鶴ヶ岡2-28~1	1990. 11.4~ 12.27	0.14	個人住宅						14	久保田耕作
60	鶴ヶ岡2-28~16	1990. 11.14~ 11.16	0.14	個人住宅						14	久保田耕作
61	久保田2-13~14	2002. 11.5~ 11.21	0.12	個人住宅						38	久保田耕作
62	鶴ヶ岡1-1~1	2003. 4.24~ 2003. 4.28	0.16	瓦葺						1	久保田耕作
63	久保田2-975~19	2000. 4.18~	0.29	個人住宅						1	久保田耕作
64	久保田2-10~5	2003. 8.3~ 2003. 8.16~18	1.07	個人住宅	2	1	1			1	久保田公私共用
65	久保田2-17~7	2003. 9.6~	0.20	個人住宅	1	2	1	5		5	久保田耕作
66	久保田2-33~49	2006. 10.41~ 2006. 10.20~25	0.09	個人住宅	1	2	1	5		5	久保田耕作

第16表 魏居遺跡住居跡一覽表

(单位cm)

住居番号	調査率	平面図()は推定	規模	地盤				埋設	備考	時間	文献
				埋設	石膏	埋設	鉛張				
1号	完掘	楕円形	680×445×40	○	②			有	テラス状入り口有	阿玉台1b古	東部通路群Ⅰ 調査会報告書8集
2号	95%	楕円形	650×530×40	○	○			有	南東部未発見	阿玉台Ⅲ古	調査会報告書8集
3号	90%	楕円・丸形	478×410×25	○	○			有	北東部一部未発見	阿玉台Ⅲ新	調査会報告書8集
4号	95%	楕円形	415×362×30	○	○			有	北端部区域Ⅳ	阿玉台Ⅲ新	調査会報告書8集
5号	完掘	楕円形	415×360×30	○	○			有	テラス状入り口有	阿玉台1b古	町内通路群Ⅲ
6号	完掘	円形	446×425×20	○	②			有	テラス状入り口有	勝坂Ⅱ新	調査会報告書8集
7号	98%	楕円形	(520×470)	○	○			床面全般的に削平	阿玉台1b新	調査会報告書8集	
8号	完掘	楕円形	(440×350)	○	○			床面北側削平	阿玉台1b新	調査会報告書8集	
9号	完掘	不規則円形	480×470×30	○	○			柱穴内設土器	阿玉台Ⅲ古	調査会報告書8集	
10号	完掘	楕円形	520×445×32	○	○			テラス状入り口有	阿玉台1b古	町内通路群Ⅱ	
11号	完掘	楕円形	482×338×30	○	○			テラス状入り口有・削床	勝坂Ⅱ古	調査会報告書8集	
12号	完掘	楕円形	463×390×25	○	○			有	阿玉台Ⅲ古	調査会報告書8集	
13号	30% (門付)		(380×7×40)	○	○	未発見		覆土の土器量多い	勝坂Ⅱ古	町内通路群Ⅱ	
14号	完掘	楕円形	425×370×20	○	○			有	勝坂Ⅱ新	調査会報告書18集	
15号	完掘	楕円形	486×400×30	○	○			床面中央部複数	勝坂Ⅱ新	調査会報告書18集	
16号	25% (楕円形)		(調査区段外) ×50	○	○	埋設時に緑色は認め		ア玉台Ⅲ古	町内通路群Ⅲ		

(2) 遺構と遺物

①16号住居跡

【位置】亀居遺跡縄文集落内では内側にあたり、4号、6号住居跡から25m離れている。

【形状】住居跡の約1/4を検出した。平面形態は円形か梢円形を呈する。確認面から床面の深さは50cm、壁は若干緩やかに立ち上がり、ほぼ垂直になる。床面はほぼ平坦であるが、炉跡周辺と壁際にローム土が薄く堆積し硬化している。

【炉】炉は深鉢を転用した埋壺炉。径32×30cm・深さ36cmのピットに口縁部と底部を打ち欠いた土器を埋設する。打ち欠いた口縁部破片は炉内側で出土した他、炉体土器外側からも出土しており、土器埋設時に口縁部破片を埋め込んでいた。炉体土器周囲の径40cmの範囲が焼け赤化している。炉内堆積土中の焼土は少ない。

【ピット】1基検出した。隅丸方形を呈し、確認面の規模35×32cm・底の規模25×22cm・深さ89cm。

【時期】炉体土器から阿玉台Ⅱ式期。

②集石土坑

16号住居跡に近接して2基検出した。

第17表 亀居遺跡第61地点集石一覧表 (単位:cm・g)

No	平面形態	土坑縦延面	底面	深さ	縦断面
1	梢円形	110×85	70×45	26	100×50
2	梢円形	125×95	105×75	22	70×65

No	縦数	重量	赤化	完形率 (%)	備考
			個数	個数比	
1	92	13,100	66	71.7%	11
2	31	2,500	8	25.8%	0 0 %

③土坑・ピット

土坑1基、ピット6基を検出した。

第18表 亀居遺跡第61地点土坑・ピット一覧表 (単位:cm)

No	平面形態	確認面	底面	深さ	備考
上坑1	梢円形	138×102	105×85	24	
P1	梢円形	55×35	35×15	14	
P2	梢円形	49×41	10×5	38	
P3	円形	52×48	34×30	20	
P4	梢円形	55×45	20×12	43	土器
P5	円形	66×64	20×10	18	土器
P6	不整形	75×60	65×45	10	P4より新

④16号住居跡出土遺物

1は炉内埋壺土器であり、胴上部の膨らむ深鉢の胴最下部を剥離させたもので口縁部の3割を欠くのみであり、口径28cm・現存部36cmである。口縁部上面は押引きによる刻目を入れ、4ヶ所に波頭部をつくる。口

縁部は長い長方形区画と短い菱形区画を押引沈線でつくる。4つの波頭下には隆帯を高く前方に突出させ太い刻目をつける。押引文は方形と菱形には2重にめぐらせ、区画上部は噴水状に押引く。口縁下端の隆線上にも押し引きで刻目を入れる。頭部には2本の波状沈線を入れるが、一部には押引きの痕跡を残している。

胴上部文様帶は、4つの突出した扇状把手とその間の梢円形区画を隆帶貼付けでつくり、その外側に押引文を連続させ、その下方にも押引き波状文2本をめぐらせる。胴下部は無文地に、断面三角形のクランク状懸垂文を扇状把手の両側に垂下させ、隆帶が一字十字状となる。輪積の接合部は丁寧にナデ調整されている。胎土には白色細砂粒と白色軟質物質が多く含み角閃石も含むが金雲母は少ない。焼成良好で赤褐色ないし黄褐色を呈する。器の内面のはば全面と口縁部外間に2次被熱によるハジケ現象がある。阿玉台Ⅱ式の古相といえる。亀居2住の炉体土器に酷似する。

2は口縁から胴中部までの3割を遺存する大深鉢で現存部高19cm。口縁部文様帶は山形と台形を区画隆帶で区画し、その内側に幅広押引文と三角押文のセットを配する。胴最上部文様帶は、幅広押引文と三角押文の間に三角押文による波状文を入れる。幅狭の隆帶間に無文の長円文を入れる。その下方の胴部文様帶も胴上部文様と同様である。胎土に白色砂粒と茶褐色砂粒・白色軟質物質を含み、赤褐色を呈する。直接接合しない3片も同一固体である。勝坂第I様式(新道式)。

3は2と同巧の文様構成をとる深鉢の胴下半部で、施文方向が2と逆である。

4は深鉢の大きい山形把手で突端を失する。口縁には押引きによる太い刻み目を入れ、隆帶の区画内にはやや斜めの連続押引文と押引きによる波状文を配す。

5は推定口径22cmの深鉢口縁部で、梢円形区画内に2列の押引文を配す。頭部の素文帶下部にも押引文を配する。6は扇状把手頂の破片で噴水状に押引文がある。7は短い押引文がはいる。8は把手頂で押引文が2列入る。9は深鉢の胴部で区画内は2列の押引文を入れ胴下半は断面三角形の垂下文を貼付け、無文の胴部の輪積接合部には突引きの刻目を入れる。10は胴部中部で垂下降帯をもち、隆帶据などに押引きによる波状文を入れる。11と12もこの部分の破片。13は噴

